

令和4年度

社会福祉法人城ヶ崎いこいの里

事業報告書

- 目 次 -

○法人本部拠点区分	P 1
○城ヶ崎いこいの園拠点区分	P 7
○碧の園拠点区分	P 13
○さくらグループ拠点区分	P 55
○奥野苑拠点区分	P 61
○ケアハウス拠点区分	P 73
○やまもも拠点区分	P 77
○こもれび拠点区分	P 83
○奨学金拠点区分	P 97
○城ヶ崎デイサービスセンター拠点区分	P 99
○おおむろ拠点区分	P 105
○事業報告の附属明細書	P 109

令和 4 年度

法人本部拠点区分

事業報告書

1 総括

社会福祉法人城ヶ崎いこいの里法人理念「共に歩む福祉・心で育む福祉・地域に広がる福祉」に基づき、その提供する福祉サービスの質の向上、事業経営の透明性及び経営基盤の強化に努めました。また、各種会議の開催並びに職員の人材確保及び定着等に努めました。

2 実施状況

(1) 理事会・評議員会等の開催

ア 令和4年度の理事会は、次のとおり開催しました。

	開催年月日	主な議決事項
1	令和4年6月9日	・ 令和3年度事業報告について ・ 令和3年度収支決算について ・ 監事監査報告について ・ 理事長及び常務理事の職務執行状況の報告について ・ 評議員候補者について ・ 令和4年度第一次補正予算について
2	令和4年9月29日	・ 施設長の選任について
3	令和4年12月14日	・ 令和4年度中間会計報告について ・ 中間監事監査報告について ・ 理事長及び常務理事の職務執行状況の報告について ・ 令和4年度第二次補正予算について
4	令和5年3月15日	・ 令和4年度第三次補正予算について ・ 令和5年度事業計画について ・ 令和5年度資金収支予算について

イ 令和4年度の評議員会は、次のとおり開催しました。

	開催年月日	主な議決事項
1	令和4年6月24日	・ 令和3年度事業報告について ・ 令和3年度収支決算について ・ 監事監査報告について ・ 令和4年度第一次補正予算について
2	令和4年12月22日	・ 令和4年度中間会計報告について ・ 中間監事監査報告について ・ 令和4年度第二次補正予算について

	開催年月日	主な議決事項
3	令和5年3月23日	・ 令和4年度第三次補正予算について ・ 令和5年度事業計画について ・ 令和5年度資金収支予算について

ウ 令和4年度の評議員選任・解任委員会は、次のとおり開催しました。

	開催年月日	主な議決事項
1	令和4年6月24日	・ 評議員の退任について ・ 評議員の選任について
2	令和4年12月22日	・ 評議員の退任について ・ 評議員の選任について

(2) 本部会議

令和4年度の本部会議は、次のとおり開催しました。

	開催年月日	主な内容
1	令和4年4月22日	・ 随意契約に係る事務手続きについて
2	令和4年5月26日	・ 理事会・評議員会提出議案について
3	令和4年11月30日	・ 理事会・評議員会提出議案について
4	令和5年2月24日	・ 理事会・評議員会提出議案について

(3) 財務管理

顧問会計士を交え、経営戦略会議を2か月に1回開催しました。各施設・事業所の利用率、予算、コスト管理等の運営及び経営における課題について把握し、課題解決に向け、取組状況の共有に努めました。

	開催年月日	主な内容
1	令和4年6月1日	・ 決算報告
2	令和4年8月2日	・ 令和4年4月及び5月の経営成績等
3	令和4年10月5日	・ 令和4年6月及び7月の経営成績等
4	令和4年11月30日	・ 中間会計報告 ・ 令和4年8月及び9月の経営成績等
5	令和5年1月31日	・ 令和4年10月及び11月の経営成績等

(4) 人材管理

ア 人材の確保

静岡県社会福祉協議会、静岡労働局等が主催する合同企業説明会やオンラインによるWEB説明会に積極的に参加しました。令和5年度新規学校卒業者を3名採用することができました。学生の就職活動の早期化に対応するため、令和6年度新規学校卒業者の採用に向け、オンラインによるWEB面談を通して、学生のキャリア支援を行いました。

また、伊東市内で開催された無資格・未経験の求職者を対象にした福祉の就職セミナーに参画し、講義及び面談により就職支援を行いました。

イ 職員の育成及び定着

令和4年度は、感染症の状況を踏まえ、法人全職員参加の集合形式型の研修は開催が困難であったため中止しました。

令和4年度に採用した新規学校卒業者に対しては、面談実施要綱に基づき、法人本部担当者による面談を年4回実施し、職場への定着に努めました。

(5) 労務管理

新型コロナウイルス感染症クラスター発生に伴い各施設で発生した労働災害について、事務手続きを適正に行いました。

(6) 施設長会議

毎月1回、法人内各施設・事業所の連絡調整を行うため、施設長会議をオンラインによる実施を含め、開催しました。

(7) 地域における公益的な取組等

ア 社会福祉充実計画

社会福祉充実計画に基づき、職員育成事業として、職員の資質向上を図るため、資格取得のための講習や研修参加に係る受講費用を補助しました。令和4年度は、新たに8名の職員が介護福祉士の資格を取得することができました。

イ 地域における公益的な取組

静岡県社会福祉協議会が主催する、小学生が福祉の仕事に興味や関心を持ち、その魅力ややりがいを知っていただくための出前授業「福祉の仕事出前講座」に参画し、市内の小学校において、職員が講師を務めま

した。

(8) 情報開示及び提供

改正社会福祉法に基づく情報開示について、社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムにより、法人の財務情報等を適正に開示し、事業運営の透明性の確保に努めました。また、各施設・事業所と連携を図り、外部に対し法人・施設の取組等を法人ホームページ等により情報発信し、公益性の高い社会福祉法人として、地域社会との信頼関係の向上に努めました。

(9) 法人運営プロジェクト

法人本部の強化等を検討するため、プロジェクトチームを発足しました。計画に基づく意思決定などの法人運営における課題解決に向け、改善を進めてまいります。

令和4年度

城ヶ崎いこいの園拠点区分

事業報告書

第1 特別養護老人ホーム城ヶ崎いこいの園

1 総括

新型コロナウイルス感染対策を継続しつつ各援助を行いました。館内において感染もありましたが、拡大防止に努め安全安心な生活を提供しました。また地域との交流は難しい状況でしたが、認知症カフェの運営に携わるなど地域福祉の向上に協力しています。

2 実施状況

(1) 介護サービスの提供について

- ア 入居者の現存能力を活用した援助を行いました。
- イ 各専門職が協働にてリハビリ計画を作成し、生活に生きるリハビリを提供しました。
- ウ 感染症発生時のリスクを最小限にするため適宜マニュアルを見直しました。
- エ サービスを向上させるため委員会の編成を行いました。

(2) 生活の質の向上について

- ア 窓越し面会のニーズに応えるため、対応数の増加を行いました。
- イ 機能訓練による前庭の散歩や、介護課による敷地内の桜見学など館外の活動に努めました。

(3) 地域との連携について

- ア 認知症カフェの運営に協力をしています。
- イ 地域健康フェスタに参加するなど、地域のイベントにも協力をしています。

(4) 食事について

- ア 栄養面や季節感をふまえ栄養士が献立を作成し、作成した献立に従い食事を提供しました。
- イ 週1回の選択メニューを実施し、食の楽しさを提供しました。
- ウ 褥瘡対策として、たんぱく質やミネラルの摂取を強化しました。
- エ 厨房内の全体清掃を月に1度実施し、設備の清潔保持に努めました。
- オ 調理従事者の検便を毎月行い、食中毒多発時期は月に2回の検査を行いました。

(5) 保健衛生について

- ア バイタル測定を行い日々の健康管理に努めました。
- イ 健康診断の調整や予防接種の援助を行いました。
- ウ 職員に対し、ストレスチェックを行いました。
- エ 月に1度安全管理委員会を開催しました。

(6) 防災対策

ア 月に1度、防災訓練を行いました。

イ 非常食や防災用具の確保に努めました。

(7) 施設等の整備

厨房内のダムウォーターを更新しました。

3 利用実績等

(1) 延べ利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度	1474	1542	1496	1536	1491	1410	1488	1467	1520	1472	1288	1450	17,634
令和3年度	1478	1514	1451	1521	1532	1487	1550	1495	1501	1500	1392	1489	17,910

(2) 窓越し面会者数（8月・9月は館内でコロナ発生）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度	21	25	24	23	8	7	28	19	30	24	23	25	257組
令和3年度	17	23	15	14	7	18	20	18	24	20	16	22	214組

(3) 月別入退所者数

月	入所の状況					退所の状況		
	家庭	病院	老健	グループホーム	有料老人ホーム	死亡	病院	その他
4月	1		1					
5月			1			1		
6月								
7月						2		
8月			1			2		
9月								
10月			2					
11月	1							
12月								
1月						2		
2月				1		2	1	1
3月				6		1		
計	2	0	5	7	0	10	1	1
	入居数 14名					退居数 12名		

第2 城ヶ崎いこいの園指定短期入所生活介護事業所

1 総括

利用者の安全を確保するため、感染症対策を徹底しました。特に外部からコロナウイルスを持ち込まないように、館内の衛生管理と基本的な感染防止対策を徹底しました。また、自立支援に基づいたケアや個別のニーズに応じた支援を心掛け、家族や居宅介護支援事業所と連携をとりながらサービスの向上に努めました。

2 実施状況

(1) 介護サービスの提供について

- ア 家庭での介護が充実するよう介護方法を検討しました。
- イ 利用者が家庭でできることを大切にし、その能力が維持できるよう残存能力を活用した援助を行いました。
- ウ 心身の状態、家族の状況、本人を取り巻く環境、生活に対する意向や要望など情報の把握に努めました。また、必要に応じて面接を実施しました。
- エ 利用者から得た情報を周知することで、介護の標準化を図りました。
- オ 利用者の苦痛や介護負担を軽減するため機能訓練を実施しました。
- カ 利用時の状況を家族に報告し、介護の提案を行いました。
- キ 利用者の心身の状況に応じて居室の環境を整えました。また、退所時に清掃や消毒を行いました。

(2) 居宅介護支援事業所との連携について

- ア 在宅生活を支えるチームの一員であることを意識し、居宅介護支援事業所や他の在宅サービス事業所と情報共有を図りました。
- イ 利用希望者が円滑にサービスを受けられるよう、居宅介護支援事業所へ空床情報を提供しました。

(3) 感染症対策について

- ア 衛生管理を徹底し、マニュアルに沿って感染症対策を実施しました。また、入館前に抗原検査を実施し、健康管理を行うことで感染症の早期発見に努めました。
- イ 新型コロナウイルス対策等、各マニュアルを定期的に見直し職員への周知を図りました。
- ウ 城ヶ崎いこいの園にて新型コロナウイルスが発生した際には、早急に利用者のゾーニングを実施し感染症の拡大防止に努めました。

3 利用実績

月	令和 3 年度			令和 4 年度		
	利用人数	延利用日数	送迎数	利用者数	延利用日数	送迎数
4 月	6	37	15	4	35	6
5 月	9	50	18	3	10	4
6 月	5	26	8	3	8	2
7 月	5	37	16	5	26	5
8 月	7	36	9	2	39	0
9 月	5	31	5	5	48	4
10 月	5	18	8	4	40	7
11 月	6	24	10	8	48	17
12 月	5	22	7	6	29	13
1 月	6	27	12	7	42	14
2 月	4	38	7	5	47	12
3 月	5	31	8	6	41	15
計	68	377	123	58	413	99

第3 いこいの園デイサービスセンター

1 総括

新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、感染予防や感染対策を徹底し、利用者が安心安全に利用いただけるよう環境整備を行いました。7月下旬に、クラスターが発生し、12日間閉所しました。その後、厚生労働省老健局高齢者支援課の書類を参考に、更に換気に気を配るなど感染対策を徹底しました。

2 実施状況

(1) 介護等について

ケース担当制度を軸とした定期的な会議を開催し、個別処遇を更に強化し、利用者や家族のニーズに沿った質の高い介護の提供に努めました。

(2) 日常業務について

- ア 送迎の安全確保のため、原則スタッフ2名体制での送迎を実施し、交通事情や天候等を考慮しながら、利用者の安全確保に努めました。
- イ 看護師による体調管理等を行うことにより、体調の変化や疾病の早期発見に努めました。

- ウ 利用者の身体状況に応じた入浴支援を実施し、心身ともにリラックスしていただけるよう配慮しました。
- エ 機能訓練士が利用者個々の状態に合わせた機能訓練を行い、心身の機能の維持・向上に努めました。また、家族への報告も行っています。
- オ 利用者の食事形態や嗜好を考慮し、楽しく食事ができるよう努めました。また、アクリル板を設置するなど、感染対策も行いました。
- カ 趣味活動やレクリエーションについては、コロナ禍のため外部講師に依頼できなかったことにより、スタッフが毎回新しい取り組みを考えました。また、パンや移動スーパー等の訪問販売を依頼することにより、買い物を楽しんでもいただきながら、利用者の利便性も増すことができ、有意義な時間を過ごしていただくことができました。
- キ 館内にコロナウイルスが持ち込まれないよう、マスク着用や換気に努めるとともに、送迎車に乗車する前の体温確認、到着時には手指消毒、バイタルチェックを行い、送迎車は使用の都度車内消毒を実施しました。

(3) 年間実施行事

- ア 4～6月
スイーツビュッフェ、新緑を愛でる会
- イ 7～9月
七夕祭り、敬老パーティー
- ウ 10～12月
運動会、クリスマス会、寿司ビュッフェ
- エ 1～3月
新年会、豆まき会、ひな祭り会

3 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年	469	477	470	429	292	388	375	374	347	332	322	354	4,629
令和3年	414	425	350	409	422	467	463	484	464	439	429	481	5,247

令和4年度

碧の園拠点区分

事業報告書

第1 障害者支援施設碧の園

1 総括

利用者の高齢化・重度化による身体機能の低下やそれに伴う未然の予防策などが近年の課題となっていて上がっていました。本人や家族の意思・意向を尊重しつつ、管理者・管理栄養士・嘱託医・看護師・サービス管理責任者・支援員と密に調整を行い、年齢や本人の現在の状態に沿って、相談・支援・介助・通院・リハビリなどの提供を柔軟に行いました。今後も利用者の高年齢化・重度化に対して、より細やかに対応するための支援やサポート体制の構築を実施していきます。

2 重点目標に対する取り組みと成果

- (1) 利用者の意向・障害の特性、その他の事情を含めた個別支援計画の作成により継続的な評価を行い、次年度に繋がる継続的な支援を行いました。
- (2) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立った福祉サービスの提供を行ったことにより、支援員もどのように日常生活を支援すれば利用者に喜ばれるか自発的に考え、意見・共有できるようになりました。
- (3) 利用者の人権擁護・虐待の防止・障害者差別の解消の推進のための研修を実施したことにより職員の虐待に関する意識向上と未然防止に努めました。

3 実施状況

(1) 個別支援計画の作成

サービス管理責任者が個別支援計画を作成しました。作成に当たっては、利用者及びその家族の生活に対する意向、総合的な支援の方針、サービスを提供する上での留意事項等を記載しました。また、個別支援計画は、利用者の能力、その置かれている環境、心身の状況等の評価を通じて利用者の希望する生活や課題等の把握を行い、利用者が自立した生活を営むことができるように立案しました。

また、個別支援計画の見直しを6か月に1回行いました。

(2) 介護・支援

介護・支援は利用者の人格に十分配慮し、個別支援計画によるサービスを念頭に行いました。また、利用者の心身の状況や障害レベルに応じて、適切な技術をもって介護・支援を行いました。

排泄の介護は、利用者の心身の状況や排泄状況などをもとに、自立支援の観点からトイレ誘導や排泄介助等について適切な方法により行いました。

(3) 生産活動

生産活動の内容については、利用者の心身の状況、利用者の本人の意向・適正・障害の特性・能力などを考慮した生産活動を提供しました。また、利用者に生産活動に係る事業の収入から生産活動に係る事業に必要な経費を控除した額に相当する金額を工賃として支払いました。

(4) 機能訓練の実施

中伊豆リハビリテーションの理学療法士が来園し、その助言を基にリハビリの強化、食事・排泄などの日常生活動作の改善を行い利用者の身体機能低下を防ぎました。

(5) 外出支援

利用者のお楽しみの充実・社会参加の支援として買い物外出・日帰り入浴・食事外出などの支援を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため、ケーキなどを事前に自己選択してもらいテイクアウト方式に変更して毎月実施しました。

(6) 食事

食事の提供に当たっては、利用者の年齢や障害の特性に応じて適切な栄養量及び内容の食事を確保するため、管理栄養士による栄養管理を行いました。また、誤嚥予防のために必要に応じ嚥下検査を行いその結果を基に食事形態の工夫を行いました。

(7) 社会生活上の便宜の供与

利用者が自らの趣味・嗜好に応じた活動を通じて充実した生活を送ることができるように支援しました。また、郵便・証明書等の交付申請等、利用者が必要とする手続きにおいて利用者又は家族が行うことが困難な場合は同意を得た上で代行しました。

(8) 職員の資質向上

職員の資質向上のために、園内の研修を企画し、外部の研修には積極的に参加しました。また、研修の内容をフィードバックするために研修報告会を行いました。

(9) 苦情解決

利用者又は家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置しております。

(10) 身体拘束の禁止

利用者の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行いませんでした。身体拘束廃止会議を年2回行いました。緊急やむを得ない場合は後見人又は家族への説明と同意書を頂いた後に実施しました。

(11) 防災対策の充実強化

消防法令に基づく設備について定期的に点検を行いました。また、夜間防災訓練も含め、消火訓練・避難訓練を月 1 回実施しました。

(12) 虐待防止

碧の園における虐待を未然に防止するために、虐待防止に関する委員会を開催しました。また、職員に対する虐待防止の啓発・普及するための研修の実施を行い不適切な支援の防止を図りました。

(13) 新型コロナウイルス感染症について

予定されていた外出計画・ボランティアの来園・会議・職員研修などは、厚生労働省や静岡県 の指針を基にして、対応会議に各事業所管理者を交えて適宜開催した上で感染拡大防止の観点から中止又は開催できるものは感染症対策を取った上で実施いたしました。

令和 3 年 1 月初旬に併設の短期入所利用者が新型コロナウイルスに感染していたことにより施設内でのクラスターへつながった経験を踏まえまして、感染症対策専門家や関係機関の助言を受けながら日課の調整を行うことにより少しずつではありますが、利用者の生活を元に戻しつつあります。また、濃厚接触者や発熱者など近い場所に感染を疑われる関係者がいた場合は、適宜通院検査・日課変更や調整を行い、対応を行いました。令和 5 年 1 月に再び男性職員及び利用者への感染がわかり、クラスターとなり収束までの約 1 カ月嘱託医の指示の元対応にあたりました。尚、職員の努力により女性利用者への 2 次的感染は認められませんでした。

短期入所に関しては利用される前に検査を行っていただいた上での利用とし、日中一時支援事業に関しては施設入所者との接触を避ける形での受入れを行いました。

(14) 栄養課

利用者の心身の健康と保持増進に必要な食べ物を提供するだけでなく、食事を通じ利用者の望ましい食習慣、栄養や衛生についての知識を得られるように努めました。

ア 年間報告

(ア) 給食面

調理はあらかじめ作成された献立に従って行い、栄養価・予算・嗜好も考慮することができました。また、適温給食を心がけました。

(イ) 栄養ケアプランについて

- a 栄養所要量は利用者の身体状況、食事状況、健康状況等を把握し算出し、個別の状況に応じ栄養ケアプランを作成しました。また、3 か月ごとの見直しを行い常に適正な食事提供を行いました。

- b 必要に応じて嘱託医の指示により、治療的食事の対応をしました。
詳細については、次の表のとおりでした。

令和5年3月31日現在

食事形態	ペースト	全粥	軟飯	荒刻み	刻み	一口大	減塩食	糖尿食	ダイエット食
対象者	2名	5名	1名	3名	6名	12名	1名	1名	11名

(ウ) 衛生面

- a 給食施設、設備の整備と清潔の保持、食品・食器の取扱い、安全面に十分留意しました。
b 給食従事者は自己の健康管理や調理時の身支度に留意しました。

イ 月間報告

- (ア) 給食従事者の検便は毎月1回と、食中毒多発期には(6月～9月)2回の合計16回行いました。
(イ) 残菜調査は毎食ごと記録しました。

(15) 保健衛生

健康の維持増進・予防を重点に実施しました。

ア 利用者

- (ア) 嘱託医 高野医院 (毎週 水曜日)
(イ) 健康診断 年2回(前期7月：後期3月)
血液検査・胸部レントゲン・検尿・血圧測定
(ウ) てんかん薬服用者は、定期の血液チェック(12名)
(エ) 歯科検診については 新型コロナウイルスのため、歯科医師より口腔内飛沫感染防止のため、中止の指示を受ける。
(オ) 眼科検診(長谷川眼科) 眼圧高値者・高齢者の定期検診
(カ) 精神科医受診(順天堂大学病院附属静岡病院 桐野 衛二医師)
随時順天堂病院にて検査・診察 月1回の受回診で
精神薬服用者の診察及び血液チェック
(キ) 体重測定 毎月1回(肥満・体重減少傾向については2回)
低体重の利用者については 毎週体重測定を実施
(ク) 血圧測定 高齢者 降圧剤服用者は毎日測定
(ケ) 通院件数

	内科	歯科	眼科	精神	婦人	皮膚	外科	耳鼻科	整形	糖尿	脳神経	リハビリ	合計
4年度	713	88	45	259	5	101	106	32	62	35	41	0	1,487
3年度	674	70	52	204	4	65	103	17	64	24	56	0	1,333

イ 職員

(ア) 健康診断 全職員対象 年1回、夜勤者年2回施行

(イ) 検便は利用者の食事支援を行う職員に実施

ウ その他

利用者・職員ともにコロナワクチン・インフルエンザ予防接種を受けました。

4 利用実績

(1) 生活介護

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
4 年度利用者延人数	985	1,043	1,050	1,021	1,110	1,055	
4 年度利用率 (%)	93.8	94.8	95.4	97.2	96.5	95.9	
3 年度利用者延人数	1,086	1,048	1,115	1,116	1,062	1,087	
3 年度利用率 (%)	98.7	99.8	101.3	101.4	96.5	98.8	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
4 年度利用者延人数	1,007	1,030	930	950	945	1,080	12,206
4 年度利用率 (%)	95.9	93.6	93.0	95.0	94.5	93.9	94.9
3 年度利用者延人数	1,038	1,083	970	945	960	1,093	12,603
3 年度利用率 (%)	98.8	98.4	97.0	94.5	96.0	95.0	98.0

(2) 施設入所支援

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
4 年度利用者延人数	1,156	1,209	1,192	1,240	1,240	1,190	
4 年度利用率 (%)	96.3	97.5	99.3	100.0	100.0	99.1	
3 年度利用者延人数	1,170	1,209	1,200	1,240	1,240	1,176	
3 年度利用率 (%)	97.5	97.5	100.0	100.0	100.0	98.0	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
4 年度利用者延人数	1,240	1,200	1,227	1,240	1,120	1,234	14,488
4 年度利用率 (%)	95.9	100.0	98.9	100.0	100.0	99.5	99.2
3 年度利用者延人数	1,209	1,162	1,239	1,202	1,074	1,209	14,330
3 年度利用率 (%)	97.5	96.8	99.9	96.9	95.8	97.0	98.1

第2 碧の園ショートステイ（併設型短期入所）

1 総括

新型コロナウイルスの圏域内の感染状況により利用の見送りをさせていただくことがありましたが、地域・在宅生活をされている家庭の方の休息や、やむを得ない緊急時などの受入れを行い、コロナ禍の中でも地域生活の一役を担うための機能は果たすことができたと思われます。

また、自宅で支援することのできない利用者が長期のショートステイ利用になるケースが多くなり、7床のうち5床を長期利用の方で占めており、早急に対応を検討しないと他の利用者が使えなくなってしまう可能性があり、課題となっています。

2 実施状況

（1）事業内容

ア 利用対象者

短期入所：短期入所利用決定を受けている障害児（者）

イ 利用定員

短期入所：7名（併設型）

ウ 支援内容

（ア）食事・排泄等の日常生活動作を支援しました。

（イ）日中の班活動、レクリエーション等余暇活動を支援しました。

（ウ）家族、関係各機関との連絡・調整、相談受付を行いました。

（2）効果

ア 保護者の介護負担を軽減し、リフレッシュする時間を作ることができました。

イ 生活面で問題のある利用者や身寄りの無い利用者の受入れを行い、家族・関係機関との連携を図り支援を行いました。

ウ 家庭内調整を図る時間を作ることで、利用者と保護者の精神的な安定に貢献しました。

エ 利用に関する相談を行い、利用者に関する状況の把握ができました。

オ 利用希望状況に応じた職員配置を行うことで、重度の障害の方の受入れに応じることができました。

カ 保護者体調不良時や冠婚葬祭等、緊急時の利用受入れに対応しました。

3 利用実績

	令和3年度		令和4年度	
	利用者延人数	利用率 (%)	利用者延人数	利用率 (%)
4月	168	80.0	196	93.3
5月	170	78.3	202	93.0
6月	145	69.0	155	73.8
7月	155	71.4	158	72.8
8月	155	71.4	192	88.4
9月	150	71.4	172	81.9
10月	138	63.5	218	100.4
11月	124	59.0	168	80.0
12月	142	65.4	183	84.3
1月	156	71.8	189	87.0
2月	127	64.7	171	87.2
3月	155	71.4	183	84.3
合計/平均	1,785	69.8	2,187	85.5

※短期入所(併設型)利用定員7名

第3 碧の園ショートステイ（日中一時支援事業）

1 総括

新型コロナウイルスの圏域内の感染状況により利用の見送りをさせていただくことがありましたが、地域・在宅生活をされている家庭の方の休息や緊急時などの受入れを行い、コロナ禍の中でも地域生活の一役を担うための機能は果たすことができたと思われます。

また、感染症対策として入所利用者の方と場所を分けて対応を行いましたが、対応をする場所と人員の確保・費用対効果が弱いことが課題となっています。

2 実施状況

(1) 事業内容

ア 利用対象者

(ア) 日中一時支援：碧の園と日中一時支援委託契約をしている市町（伊東市・熱海市・伊豆市・東伊豆町）に在住し、その市町の日中一時支援利用決定を受けている人

イ 利用定員

(ア) 日中一時：なし（安全にお預かりできる範囲内）

ウ 支援内容

(ア) 食事・排泄等の日常生活動作を支援しました。

(イ) 日中の班活動、レクリエーション等、余暇活動を支援しました。

(ウ) 家族、関係各機関との連絡・調整、相談受付を行いました。

(2) 効果

ア 保護者の介護負担軽減やリフレッシュする時間を提供できました。

イ 生活面で問題のある利用者や身寄りの無い利用者の受入れを行い、家族・関係機関との連携を図り支援を行いました。

ウ 利用に関する相談を行い、利用者に関する状況の把握ができました。

エ 利用希望状況に応じた職員配置を行うことで、重度の障害の方の受入れに応じることができました。

オ 朝から夕飯後の時間帯の利用希望に応えることで、保護者の就労の継続に貢献しました。

カ 保護者体調不良時や冠婚葬祭等、緊急時利用受入れ対応しました。

3 利用実績

	令和3年度利用者延人数	令和4年度利用者延人数
4月	98	29
5月	97	24
6月	90	28
7月	112	35
8月	93	19
9月	90	24
10月	114	28
11月	102	29
12月	114	40
1月	75	28
2月	78	26
3月	94	24
合計	1,157	334

※令和4年度にかけて利用者数が減少しているのは隣接のひだまりが平日の閉所時間後の日中一時支援事業を開始し同事業所に通う利用者がそちらを利用しているため。

第4 児童発達支援センター クローバー

1 総括

新型コロナウイルス感染症との付き合いも3年目に入り、今年度は、8月、1月と2度の流行の波を乗り越えることとなりました。特に若年層への感染拡大が顕著であり、幾度となく利用者や職員の感染や濃厚接触者認定による休みが繰り返され、事業継続に苦慮した一年となりました。

令和3年度との大きな変更点は、児童発達支援事業を週3日、保育所等訪問支援事業を週2日の営業日としたことです。児童発達支援事業と保育所等訪問支援事業はスタッフが兼務。保育所等訪問支援は1人のスタッフで行っているため、課題であった訪問支援日を確保する事、児童発達支援の非常勤勤務である他スタッフの勤務日数の関係、児童発達支援事業の利用者の希望日数等を考慮しこのような形となりました。

児童発達支援事業では年度当初は就学や就園児の増加に伴い、利用が少なくなりますが、今年度は新規利用児が順調に増えていきました。しかし、前述にもあるように、若年層へ広がった新型コロナウイルス感染症の影響により、利用児やスタッフの家庭内感染により休みが長期化することが多く、利用率の減少がみられています。年間を通し新規申し込みに関しては低年齢化の傾向にあります。就園に向けて課題克服を目的に利用されるケースが多く、これは本来児童発達支援事業が担うあるべき姿のため、事業所の役割が地域に浸透してきたと言えるかもしれません。

保育所等訪問支援事業も今年度は利用希望が増加。児童発達支援事業を経て就園、就学へ移行したケースが主でしたが、関係機関からの紹介も増えつつあります。訪問日を確保したことにより対応人数や訪問回数も増やすことができ関係機関との連携も密にとることができました。

放課後等デイサービスでは、関係機関と連携を取り合い、新型コロナウイルスの状況を把握し、感染の拡大防止に努めました。やむを得ず閉所とした日もありましたが、これまでの経験を活かし、感染対策のレベルを上げ、コロナ禍でもできる活動を提供してきました。今年度は、今まで利用を控えていた児童が利用を再開するなど、利用率も少しずつですが、回復傾向にあります。

2 実施状況

(1) 実施事業

ア 児童発達支援	定員 10 名
イ 放課後等デイサービス	定員 10 名
ウ 保育所等訪問支援	

- エ 相談支援
- オ 他機関支援（専門職派遣）

（２）事業内容

ア 児童発達支援

（ア）対象者

伊東市及び近隣市町に住む就学前の児童発達支援利用決定を受けている児童

（イ）利用時間

月～金曜日 ８：３０～１４：３０

（ウ）場所

碧の園クローバー棟及びグラウンド

（エ）支援内容及び効果

a 個別支援計画の作成

基本的に６か月ごとの見直しを行いました。計画前後には面談を行い、保護者の育児に対する不安、特性による行動に対する対応方法などをアドバイスし困りごとを解消できるよう相談対応しています。

b 日常生活動作訓練

個々の身体的特性や発達特性、発達年齢をふまえ、食事、着替え、排泄（トイレトレーニング含）時の介入方法をスタッフ皆で共有し介入しています。個々に対応が異なること、マンツーマン対応となるため、PDCA サイクルを職員全体で行っています。

c 療育

毎月１回のカンファレンスと日々の振り返りを行い、個々の療育目標や課題等について検討。目標に合わせ日々の活動内容を決定し遂行しています。

d 食事の提供

発達特性上の摂取食物の偏りや、咀嚼など適切な発達を促す必要のある児童が多いこと、低年齢児童が多いことなど、今年度も食事への療育介入を必要とする児童が多くいました。

新型コロナウイルス感染予防対策として、利用児と支援者の昼食摂取時間帯を分けざるを得ない状況が続いています。口元を見ることができないマスクを装着した介入は、食事に対する療育的介入は十分とは言えない状況が続いています。

e 健康管理及び医療的ケア

数年医療的ケアを必要とする対象者が数年間利用ない状態が続いたため看護師が退職。医療的ケア児の受け入れができなくなっています。また、昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、東京在住の嘱託医の訪問が難しく、新規利用児の健康診断ができない時期が続きました。健康管理についてはスタッフと保護者間で連携を密にし些細な変化についても報告相談しながら行っています。

各保護者においては、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を理解し協力をいただきました。

f リハビリテーションの実施

作業療法士による評価を行っています。個々の発達を促すために、必要な要素を保育士による日常生活動作や日常活動に取り入れるとともに、必要に応じ作業療法士による個別リハビリテーションを実施しています。日々の療育にもリハビリテーションの視点を取り入れています。

g お便りの発行

毎月1回お便りを発行しています。事業所での様子や行事等のお知らせを掲載しています。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染予防に関する情報、その他育児に必要な情報も、随時掲載し保護者への情報提供を行っています。

h 参観会、保護者会の実施

感染予防対策を行いながら、新型コロナウイルス感染症の発生が少ない時期に一組ずつ実施。保護者の方々からは、集団での様子が見られてよかった。成長した姿が見られてうれしかった。等の感想をいただきました。保護者会の実施は今年度も見送りました。

i 相談及び支援

日々、積極的にコミュニケーションを図る中で、保護者の様子や気持ちの変化を敏感に感じ必要な声かけや助言、または傾聴し育児への活力を育てていくような働きかけをしています。

J 虐待防止委員会の実施

虐待に関する研修やアンケート調査等を行いました。
虐待への基礎知識の更新し意識を高め日々の療育にあたっています。

(オ) 効果

a 多職種チーム連携

保育士・社会福祉士・作業療法士が利用児に対しそれぞれの視点から分析することができ、多角的な支援に繋がっています。

PDCA サイクルが有効に働いています。

b 療育結果

併用先幼稚園、保育園の先生方に、通所後の利用児の変化の声をいただいています。

(カ) 反省

職員確保、事業の継続性

利用児の低年齢化、障害特性、感染症の感染リスクが高い環境であるため職員個々にかかる負担が大きくなっています。

イ 放課後等デイサービス

(ア) 対象者

伊東市及び近隣市町に住む就学中の児童

(イ) 利用時間

月曜日～金曜日…下校時間～17：30

土曜日（第2・第4）…8：30～17：30（昼食はお弁当持参）

祝日（年末年始は除く）…8：30～17：30（昼食はお弁当持参）

(ウ) 場所 碧の園クローバー棟及びグラウンド

(エ) 支援内容及び効果

a 個別支援計画の作成

基本的に6か月に1回の見直しを行いました。保護者と面談を行ない、日常生活の課題を把握し計画を立案しました。毎週職員会議を開き、長期休暇中の対応や個々のケース等について話し合いを行いました。また、事故やヒヤリハットの検証を行い支援内容の改善につなげました。

b 戸外活動

敷地内のグラウンドで体を動かす遊びを実施しました。ボールを使った遊び（野球、サッカー、当てっこ）を取り入れ、ルールも学ぶことができました。散歩の回数を増やし、コロナ禍での運動不足を解消するために、体を動かす習慣作りをしました。夏休み中は、密を避けながら少人数交代制でプール遊びを楽しみました。

c 室内活動

毎週水曜日に集団活動の日を設けました。ギターやキーボード演奏に合わせたリトミックや簡単なゲームを行いました。帰

りの会では、短時間でできる遊びを提供し、集団活動を行うことによって、コミュニケーション力や協調性を育む機会を増やしました。また、実際のお店でおやつを購入することを想定した、お買い物ごっこを定期的に行いました。

d 行事活動

毎年恒例となっている運動会とクリスマス会を行いました。運動会では、様々な種目にチャレンジし、走る・飛ぶ・投げる動作を学びました。クリスマス会は、クリスマス週間と題して、ゲームや音楽、クリスマス衣装に仮装して写真撮影を行い、雰囲気味わってもらうことができました。

e 日常生活支援

食事、排泄、着替えの見守り・支援を行いました。見通しが持てるように、スケジュールボードを活用しました。家庭や学校と連携を取り合いながら、統一した支援を心掛けました。

f お便りの発行

毎月1回お便りを発行し、日々の活動の様子を写真に撮って掲載し、保護者に伝わるよう努めました。

g 放課後等デイサービス連絡会

年4回の連絡会に出席し、他事業所や学校と情報交換を行い、地域の子どもたちが抱える課題などについて、検討を重ねました。今年度は、学校見学や研修に加え、多くの学校との繋がりを深めるため、教育委員会主催のコーディネーター研修会に参加し、放課後等デイサービスの活動内容等について紹介する場を設けていただきました。

h 感染症対策

手洗い、消毒、換気の徹底や仕切り板の使用、レイアウトの変更をして感染症対策を行いました。職員は必要に応じて、フェイスガードやガウンの着用をしました。濃厚接触者の判断材料として、食事や送迎時の場面で配置表を活用し、速やかに特定に繋げ感染拡大の防止に努めました。

(オ) 反省

a 職員の不足や新型コロナウイルスの影響で、業務の負担が大きくなっています。また、利用児に対しても満足のいく支援ができませんでした。

b 雨の日の活動が課題となっています。

ウ 保育所等訪問支援

(ア) 対象者

伊東市及び近隣市町に住む保育所等に通う保育所等訪問支援利用
決定を受けている障害児または障害が疑われる児童

(イ) 利用時間

月曜日～金曜日・・・8:30～17:30

(ウ) 場所

訪問先施設（幼稚園・保育園・小中高等学校等）

(エ) 支援内容及び効果

a 個別訪問による評価

利用児の通う園や学校での活動時間に合わせ訪問します。担任及び担当教員と課題を確認後、活動の様子を見学します。児の現れを分析し、先生方と共に、課題に対し必要な支援や配慮点、クラス運営内での直接的な関わり方や活動への参加方法等を検討します。

b 個別支援計画の作成

利用者及び保護者の方の要望やその児が通う施設の関係者と共に、抱える課題やその解決方法の検討を行うための計画を立案します。

(オ) 効果

a 発達やその他の問題を抱える園児や児童の理解が深まり、先生の対応に変化が表れます。

b 理解と対応が変化することで子供を取り巻く環境が変わり、子供自身の適応力が変化していきます。

c 保護者や先生の「育てたいこと」を共有し、目標設定を行いながら両者のエンパワーメントを支援しています。

d 事業が徐々に関係機関に周知されてきています。

e 契約数増加しています。

f 訪問日を作ったことで支援できる機会が増え、換気機関との関係が深まっています。

(カ) 反省

新型コロナウイルス感染症の若年層への広がりにより、訪問が中止になるケースが多発しました。

エ 相談支援

(ア) 対象者

伊東市及び近隣市町に住む児童・保護者

(イ) 利用時間

月曜日～金曜日・・・8:30～17:30

(ウ) 場所

児童発達支援センター クローバー

(エ) 方法

電話及び来所

(オ) 支援内容及び効果

年間相談数 3 件

全て、関係機関からの相談。

オ 他機関支援（専門職派遣）

他機関より作業療法士派遣の委託依頼を受託し派遣を行っています。

(ア) 派遣先

伊東市子育て支援課 療育教室 （36 回／年）

東伊豆町健康づくり課 療育教室 （6 回／年）

東部特別支援学校分校 （1 回／年）

(イ) 効果

- a 専門職を派遣することで、児童発達支援事業や保育所等訪問支援事業の利用に繋がっています。
- b 療育に多職種がかかわることの有効性が評価されています。

3 クローバー利用実績

(1) 児童発達支援

	令和3年度		令和4年度	
	利用者延人数	利用率 (%)	利用者延人数	利用率 (%)
4月	110	52.3	49	40.0
5月	89	49.4	51	46.0
6月	107	48.6	73	52.0
7月	116	60.0	64	53.3
8月	114	60.0	52	43.3
9月	112	58.0	63	52.5
10月	107	50.9	74	56.0
11月	97	46.1	65	54.0
12月	91	45.5	70	50.0
1月	73	40.5	65	50.0
2月	91	45.5	60	50.0
3月	105	52.0	77	55.0
合計/平均	1,212	50.7	763	50.2

(2) 放課後等デイサービス

	令和3年度		令和4年度	
	利用者延人数	利用率 (%)	利用者延人数	利用率 (%)
4月	206	79.2	204	78.4
5月	187	74.8	223	85.7
6月	208	80.0	229	88.0
7月	208	80.0	214	82.3
8月	168	64.6	217	80.3
9月	215	82.6	222	84.6
10月	209	80.3	208	80.0
11月	210	80.7	224	86.1
12月	205	85.4	206	98.0
1月	107	46.5	194	88.1
2月	188	78.3	215	97.7
3月	227	84.0	233	97.0
合計/平均	2,338	76.3	2,589	87.1

(3) 保育所等訪問支援

利用者延人数	令和3年度	令和4年度
4月	3	5
5月	7	10
6月	9	15
7月	7	9
8月	0	3
9月	3	7
10月	7	9
11月	8	6
12月	6	8
1月	0	1
2月	3	13
3月	6	4
合計	59	90

第5 伊東市重度障害者デイサービスセンターひだまり

1 総括

令和4年度、ひだまりは1名の新規利用者を迎えましたが、1名の方が法人内他事業所に転移しましたので、登録者21名のスタートとなりました。延べ利用人数は4,217名で前年度比103%となりました。

新型コロナウイルス感染症については、令和3年1月の集団感染による長期休業を経験し、いかに感染の範囲を広げないかに努めることで予防対策と早期発見に依り、感染拡大を防ぎました。しかし、他事業所の併用利用の方は自粛が続き、当初の予想平均利用率には至りませんでした。

また、生活介護においては個別支援計画に基づき必要に応じて情報共有を行い支援しましたが、感染状況を鑑み行動の制限もかけ、外出行事の縮小や中止を余儀なくされました。それでも小さな積み重ねを継続する事で、個々の成長と変化があった一年となりました。

2 重点目標への取組みと成果

- (1) 地域近隣の方からご協力を戴き、ペットボトルラベル剥がしや廃品の分類、持ち込み等のリサイクル活動を行うことができました。週一回の定期回収では、ひだまりの活動を身近に感じて頂く機会としてご理解を得ております。反対にマスク着用が不完全の方も多く、体験を広げる活動は制限しましたので、ボランティアさんとの交流は行えませんでした。
- (2) 利用者の方には、日中活動時間が有意義になるように本人の好き嫌いを大切に活かせる場面を多くしようと考えましたが、系統立てて支援内容に組み込む事は今後の課題となっています。それでも日々の生活の中では着座や音楽を楽しみ、明るい表情が増えており、今後の意思疎通や意思決定支援に繋がりたいと考えます。
- (3) 職員のスキルアップ研修に関しては、虐待防止・身体拘束廃止・意思決定支援・感染対策委員会などによって共通理解を深め、事故防止に繋ぎ、心身共に健康な日々を送ることができました。

3 実施状況

日々の活動としては、体力の維持・向上を目的とし、体を動かす機会を多く持つようにしました。一碧湖や奥野ダムでの歩行活動を中心とし、雨天時にはルームウォーカー、サイクリングマシン、音楽を流しての園内歩行を行い、下肢筋力強化を目指しました。他にユーチューブを活用しての運動等、さまざまなことに試みました。作業ではミシン班による

雑巾作成等で、利用者様の工賃積み増しに貢献できました。園芸班では例年の活動に加え、多肉植物の栽培に試みました。

(1) 外出活動

実施日	目的地	内 容	参加人数
4. 1 3	六仙の里	見学	1 0
4. 2 8	小室山つつじ祭り	散策	1 6
5. 2 6	梅採り	体験	8
6. 1	いちご狩り 1 班	体験	7
6. 3	いちご狩り 2 班	体験	7
7. 2 8	萬城の滝	散策	1 8
9. 1 6	いるか浜	散策	1 0
1 0. 2 1	長浜海浜公園 1 班	散策、食事	7
1 0. 2 8	長浜海浜公園 2 班	散策、食事	8
1. 4	一碧湖神社	初詣	1 6
3. 3 1	さくらの里お花見	散策	1 0

(2) 行事

実施日	内 容	参 加 者 数			
		利用者	家族	職員	その他
4. 1	新規利用者歓迎会	1 6	0	1 1	0
7. 2 6	ひだまり夏祭り	1 7	0	1 3	0
9. 2 4	伊東市ふれあい広場	台風のため中止			
1 0. 2 7	ハロウィン	1 6	0	1 2	0
1 1. 1 1	ひだまり秋祭り	1 7	0	1 4	0
1 2. 2 3	忘年会・クリスマス会	1 8	0	1 4	0
1. 1 3	成人を祝う会	1 7	1	1 4	0
2. 3	節分（豆まき）	1 6	0	1 2	0
3. 3 0	お楽しみボーリング	1 7	0	1 2	0

(3) 地域交流活動

実施日	内 容	参加利用者数
12. 6	障害者週間作業作品配布 (リサイクル品回収コース)	17

4 利用状況

	利用延人数及び利用率				開所日数		平均利用者数／日	
	3年度 人数	利用率	4年度 人数	利用率	3年度	4年度	3年度	4年度
4月	358	81.4	335	79.8	22	21	16.3	15.9
5月	317	75.5	366	83.2	21	22	15.1	16.6
6月	340	77.3	369	83.9	22	22	15.5	16.7
7月	376	85.5	349	83.1	22	21	17.1	16.6
8月	338	76.8	354	77.0	22	23	15.4	15.3
9月	370	84.1	353	80.2	22	22	16.8	16.0
10月	343	81.7	355	84.5	21	21	16.3	16.9
11月	384	87.3	378	85.9	22	22	17.5	17.1
12月	325	85.5	327	86.1	19	19	17.1	17.2
1月	277	69.3	315	78.8	20	20	13.9	15.7
2月	279	69.8	323	80.8	20	20	13.9	16.1
3月	350	87.5	393	85.4	20	23	17.5	17.0
計	4,057	80.1	4,217	82.4	253	256	16.0	16.4

第6 ひだまり日中一時

1 総括

重い障害のある方の環境変化への対応は困難で、時間で事業所間移動する事は大きなストレスをもたらします。

本年度より新たに加わったひだまり日中一時支援は、利用者数からから見れば少人数ではありますが、そのような人達の居場所として、またご家族の就労継続や緊急時に安心してお預かりできる空間として在宅の障害者にとっては重要な場所になっています。そして、碧の園短期入所の定員がいっぱいである時に過ごせる機能も果たしました。

2 利用状況

月	利用人数	月	利用人数
4月	89	10月	78
5月	95	11月	90
6月	108	12月	75
7月	89	1月	71
8月	37	2月	58
9月	64	3月	75
		年度合計人数	929

第7 伊東市児童・身体障害者福祉センターはばたき

1 伊東市障害者デイサービス

(1) 総括

デイサービスでは、在宅における知的、精神、身体の方の自立と生活の質の向上を目指し、創作活動を通してやる気や自信を持てるよう支援し、身体的機能維持向上のためリハビリ訓練、余暇活動の提供や利用者とその家族の相談業務の充実を図り、生活の質の向上を目指し支援しました。

コロナウイルス感染予防のため、創作活動の講師やボランティアの交流は控えさせていただきました。その為、創作活動については職員が色々な題材等を用意し提供しました。

(2) 実施状況

ア 体験利用等受入状況

月日	種別	人員	活動内容
7月14日	体験利用	1	体験利用
7月15日	体験利用	1	体験利用
7月27～28日	体験利用	1	体験利用

イ 創作活動報告

(ア) 音楽活動

a 基本項目 年間実施回数 20回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和4年度	92	48	140	リズムスティック、ハンドベルなど
令和3年度	91	60	151	リズムスティック、ハンドベルなど

c 本年度の総括

ハンドベルを中心に「きらきら星、きよしこの夜」を練習し演奏できるようになりました。リズムにのり手拍子、体を揺らすなど楽しく参加されました。

d 次年度への課題

ハンドベルを中心に、いろいろな曲にチャレンジし披露できるよう支援します。

(イ) 絵画

a 基本項目 年間実施回数 21回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和4年度	73	54	127	季節の果物、風景画など
令和3年度	77	58	135	季節の花、野菜、デッサンなど

c 本年度の総括

季節の果物や風景画などの題材を水彩絵の具やクレヨン、付箋を使い作品作りができました。伊東市芸術祭には3年振りに出展することができました。また、はばたき館内にて自分で選んだ絵画作品を展示し、ご家族の方に日頃の活動成果を観ていただくことができました。

d 次年度への課題

季節の果物や風景画などの題材を描く事を楽しんで頂けた為、次年度においても引き続き旬の果物、植物、風景画、季節や行事に合わせた題材で絵を描くことを通し、個々の感性を広げ、自己表現の場を提供したいと思います。

(ウ) 紙工作

a 基本項目 年間実施回数 42回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和4年度	135	106	241	天の川、おばけ、卒業など
令和3年度	128	106	234	レンゲ、サル、柿など

c 本年度の総括

季節や行事に合わせた題材でたくさんの作品を作成しました。伊東市芸術祭に出展する作品作りは、皆さんで意見を出し合い協力して行いました。また、はばたき芸術祭に展示しご家族の方にも見ていただき喜んでいただきました。

d 次年度への課題

伊東市芸術祭に向け、皆さんで協力し紙工作を楽しみながら行います。また、はばたき芸術祭も開催しご家族や地域の方にも見て頂く場を設けて行きます。

(エ) 陶芸

a 基本項目 年間実施回数 18回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和4年度	35	57	92	来年の干支、お花づくり等
令和3年度	70	39	109	ジオラマ、お皿など

c 本年度の総括

伊東市芸術祭に向け「お花畑と動物」の制作を行いました。参加者みんなで協力し石粉粘土で模型を作り、色塗り、ニス塗りを行いました。伊東市芸術祭、はばたき芸術祭を行いご家族に見て頂くことができました。

d 次年度への課題

個々の感性を活かした作品作りを支援していきたいです。次年度も展示会への出展を行い、作る事の喜びや達成感を感じていただけるよう支援していきたいと思います。

(オ) 華道

a 基本項目 年間実施回数 12回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和4年度	11	23	34	カーネーション、スターチスなど
令和3年度	11	35	46	スプレーカーネーション、撫子など

c 本年度の総括

講師の方が見えられていないため、花卉ではなく、月に1度オアシスに季節の花を自分の個性を生かし生けることができました。また、怪我無く楽しく行うことができました。

d 次年度への課題

オアシスには季節の花々を感性をいかした生け方ができるように心掛け怪我のないように十分な配慮をしていきます。
講師の方が見えられた際には、先生の助言のもと、個性を生かすことのできる作品作りに心掛けていきます。

(カ) 料理

a 基本項目 年間実施回数 0回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和4年度	0	0	0	
令和3年度	0	0	0	

c 本年度の総括

コロナウイルス感染拡大のため、中止となっています。

d 次年度への課題

おやつ作りが再開した際には、衛生面にも注意し怪我・事故の無いように配慮していきます。また、色々なメニューにも挑戦していきます。

(キ) レクリエーション・スポーツ

a 基本項目 年間実施回数 51回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和4年度	189	158	347	トイレットペーパー送りなど
令和3年度	214	208	422	ジェスチャーゲーム、ボッチャーなど

c 本年度の総括

利用者が、楽しく参加していただけるよう、様々なゲームを提供し利用者同士がコミュニケーションをとりながら協力して行うことができました。

d 次年度への課題

様々なゲームを提供し、利用者同士が協力し楽しく参加いただけるよう支援していきます。

(ク) 手工芸

a 基本項目 年間実施回数 52回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和4年度	194	98	292	春のつるし飾り、クリスマスツリーなど
令和3年度	115	123	238	雛飾り、スクラッチアートなど

c 本年度の総括

季節に合わせた作品を、個性を生かし作る事ができました。
また、はばたき館内で行った芸術祭にも出品しご家族の方などにも作品を見ていただきました。

d 次年度への課題

季節を感じる作品をバラエティ豊かに取り入れながら楽しく制作し、個性を生かせる作品作りができるように支援します。

(ケ) 所外活動（外出訓練）

a 基本項目 年間実施回数 0回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和4年度	0	0	0	
令和3年度	0	0	0	

c 本年度の総括

コロナウイルス感染拡大のため、外出することができませんでした。

d 次年度への課題

外出することができる際には、事故等に気を付けて楽しく外出活動を行います。皆さんの希望を聞きながら計画していきます。

ウ 行事等実施報告

(ア) 行事实施記録

行事名	月 日	男性	女性	参加者
デリバリー	4月18日、9月20日、10月19日、1月20日	15	16	31
バスハイク週間	10月21日～27日	24	12	36
忘年会	12月14日、22日	6	8	14
ケーキ作り	12月13日、15日、19日、21日、23日	12	15	27
初詣週間	1月4日～6日、10日、16日	18	10	28
節分週間	1月30日、31日、2月1日～3日	20	20	40
いちご狩り週間	2月8日～10日、2月20日、21日	22	21	43
ひな祭り週間	3月1日～3日	13	11	24
全館防災訓練	5月26日、11月14日	10	6	16
	合計	140	119	259

(イ) 本年度の総括

外出は初詣のみ行いました。予定していたバスハイク、いちご狩り外出は、デイルームにて外出気分を味わって頂く企画に変更し皆様に楽しむことができました。

(ウ) 次年度への課題

外出する時間を短くし、少しでも外出気分を味わって頂ける企画を立てていきます。

エ 医務的処遇報告

(ア) 健康管理

バイタルサイン測定（体温、血圧、脈、SpO2 など）送迎乗車前に体温測定を行い、到着時、リハビリ前、入浴前にバイタルチェックを行い、血圧上昇時や発熱、頭痛、気分不快などの自覚症状が認められた場合には、再度バイタルチェックを実施しています。食欲の有無や睡眠、排尿排便の有無、顔色や活動状態なども十分観察をしました。また、脱水予

防としては、水分補給を促し、利用者の健康状態の変化についても常に注意を払うようにしました。

毎回連絡帳には、バイタルの測定値を記入し、本人と家族に健康状態を把握していただくようにしました。また、家族からの情報をもとにデイサービスでの対応に役立てるように配慮しました。(家庭での体温チェック表)

血圧高値の時は、入浴やリハビリは控えていただいたり、皮膚疾患がある場合は浴槽につからずシャワー浴に変更したり、状況に応じた対応を行いました。また、発熱(体温が 37.5℃以上)がある場合、家族のいる方には早急に電話連絡し、可能なかぎり迎えに来ていただき受診を勧めました。

(イ) 口腔機能向上(口腔ケア、摂食、嚥下機能訓練)

虫歯や歯周病予防、誤嚥性肺炎の予防のためにも、食後の歯磨き、うがいを促しました。食事中にむせや咳込み、よだれが多い場合には嚥下障害が疑われますので、間接的訓練で嚥下体操も行いました。

(ウ) 健康相談

病気に関する質問や処置に関する方法についても、助言指導を行いました。

(エ) 体重測定

毎月 1 回測定を行いました。結果については連絡帳に記入を行い、現在の状況把握と各自の健康維持の参考にしていただきました。また、急激な変動に対しては助言指導、各関係機関に連絡をしました。

(オ) 感染予防対策

感染対策として、利用者、職員への衛生的手洗いの指導と咳エチケットでマスク装着や手消毒液の利用を促しました。

インフルエンザ・コロナウイルスについては、本人や家族がインフルエンザ・コロナウイルスにかかった時の対応を法人で統一した文書を作成し、家庭に配布、説明しました。利用前に発熱等の体調不良があった場合は、無理をせず休んでいただき受診を勧めました。

(カ) 服薬管理

利用者の内服薬を確認し、昼食時与薬する場合は、利用者に渡して、与薬していただきました。また、お薬手帳や処方せんを定期的に確認し、各利用者の薬物療法の必要性を理解し、常に把握するように努めました。

(キ) 医療的ケア

a 処置(爪切り)

爪切りができない利用者への爪切りを指導するとともに、入浴後や希望時に実施しました。

b 処置（皮膚疾患）

皮膚疾患においては、主治医処方持参薬を塗布しました。患部の疼痛に対しては、状況を観察して持参の湿布薬や塗り薬などにて対応し、状態に応じて医療機関に受診を促しました。擦過傷等の時は消毒後カットバン又はガーゼにて保護処置を行いました。

c 緊急時の対応

基礎疾患のある利用者様の緊急時対応で、主治医と確認し本人やご家族が安心してご利用できる様、文書にてお渡ししました。

d 嘱託医による対応

今年度も「セカンドオピニオン」という立場から許田医院の許田医師に月一回の健康相談や、デイサービスとしてできる範囲内の医療処置をしていただきました。また、職員に対しては健康診断、インフルエンザの予防接種、医療的指導、各相談に応じていただきました。

オ 機能訓練について

月、水、金曜日に機能訓練士によるリハビリを行いました。また、月に一度、理学療法士を招き、利用者様と職員に対しご指導ご助言を頂き身体機能維持、向上を行いました。機能訓練士不在時には、自主リハビリの見守りを支援員が行いました。

(3) 利用実績

ア 利用登録者の推移

(ア) 本年度の利用状況

a 利用実績部門

月	新規	登録 抹消	登録 者数	事業 日数	月間延 数	欠席 者数	出席率 (%)	1日 平均
4	0	0	25	20	140	54	72.2	7
5	0	1	25	19	143	44	76.4	7.5
6	0	0	25	22	167	42	79.9	7.6
7	0	0	25	20	148	39	79.2	7.4
8	1	1	25	22	151	73	67.4	6.8
9	0	0	25	20	150	39	79.4	7.5
10	0	0	25	20	156	35	81.6	7.8
11	0	0	25	20	158	27	85.4	7.9
12	0	1	24	19	139	38	78.5	7.3
1	1	0	25	19	146	30	82.9	7.6
2	0	0	25	19	155	27	85.2	8.2
3	0	0	25	22	178	32	84.8	8.1
年間	計	計	現在	合計	合計	合計	年平均	年平均
	2	3	25	242	1,831	480	79.4	7.5
男性	1	1	16					
女性	1	2	9					

b 利用登録部門

利用記録部門	男性	女性	合計	
累計登録者数	112	93	205	開設以来の登録実績
現在登録者数	16	9	25	令和5年3月31日現在
本年度登録抹消者数	1	2	3	施設入所のため等
本年度利用者数	14	8	22	1回以上の利用した方
自主通所者数	2	0	2	自己手段による通所の方
本年度完全休止者数	2	1	3	今年度1度も利用のない方
年間延べ利用者数	1,034	797	1,831	年間利用者総数
年間出席率	79.2% (出席者 1,831 名・欠席 480 名)			

c サービス提供部門

サービス提供部門	算出データ			
年間食事提供実績	食事受給者数（今年度食事サービスを受けた方） 〔受給者数〕 22 名（男性 14 名・女性 8 名）			
	総提供食数 1,780 食 （常食 1,431 食・刻み食 349 食・ペースト食 0 食）			
年間送迎実績	総運行回数（大ワゴン車 456 回、ワゴン車 470 回、 車イス車両 206 回） 総利用人数（大ワゴン車 1,401 名、ワゴン車 1,538 名、車イス車両 281 名）			
年間入浴サービス実績	令和 5 年 3 月 3 1 日現在			
年間延べ利用者数	利用形態	対象 者数	延べ 人数	今年度 1 回以 上入浴された 方（登録抹消者 を含む。） 合計 14 名
男性 609 名				
女性 315 名				
合計 924 名				
1 日平均 3.8 名				
1 日当たり最大 5 人最小 0 名	一般浴自立	1	90	
	一般浴半介助	6	460	
	一般浴全介助	1	71	
	機械浴	7	297	
機能訓練実績	機能訓練士指導総数件 854 件 男性：603 件 女性：251 件			
	自主訓練総数 358 件			

(イ) 利用者の基本状況

a 障害等級分布（令和 5 年 3 月 31 日現在）

	男性	女性	合計
身体 1 級	5	1	6
身体 2 級	4	3	7
療育手帳 A	4	5	9
療育手帳 B	2	0	2
精神手帳 1 級	0	0	0
精神手帳 2 級	0	0	0
なし	1	0	1
合計	16	9	25

上記に加えて、重複して所持している方

	男性	女性	合計
療育手帳 A	2	1	3
療育手帳 B	1	1	2

b 移動形態分布（令和５年３月３１日現在）

移動形態	男性	女性	合計
（車椅子常用者）移動の際に必ず車椅子の方	5	0	5
（車椅子併用者）室内等では歩行移動も可能な方	1	0	1
（歩行介助者）車椅子ではなく介助が必要な方	1	0	1
（装具使用者）歩行できるが装具等が必要な方	1	5	6
（自立歩行者）歩行レベルが高く自立域の方	8	4	12
合計	16	9	25

c 身体状況分布（令和５年３月３１日現在）

障害状況	男性	女性	合計
両下肢機能障害	1	0	1
言語障害	1	2	3
両聴覚障害	1	0	1
両上下肢機能障害	2	1	3
知的障害	8	6	14
右上下肢機能障害	0	1	1
肢体不自由	1	0	1
運動器不安症	1	0	1
両下肢肢体不自由	0	1	1
ADL 低下・嚥下機能低下	1	0	1
心臓機能障害・アイゼンメンガー症候群	1	0	1
右下肢三頭筋亢進・右足関節背屈制限	0	1	1
高次脳機能障害	1	0	1
左上下肢機能障害	2	0	2
右眼眼圧異常	1	0	1
腎臓機能障害	1	0	1
両内耳性難聴	0	1	1
ひきこもり	1	0	1
合計	23	13	36

※重複して障害を持つ方も含みます。

d 障害要因疾病分布（令和5年3月31日現在）

要因疾病	男性	女性	合計
脳血管障害	1	1	2
ダウン症	0	3	3
脳性麻痺	2	2	4
頭部外傷	1	0	1
知的障害	5	0	5
統合失調症	2	0	2
精神発達遅滞	0	1	1
巨細胞封入症	1	0	1
慢性腎不全	1	0	1
変容性骨異形成症	1	0	1
筋ジストロフィー	1	1	2
ファロー四徴症心室中隔欠損	1	0	1
左被殻出血	0	1	1
合計	16	9	25

e 利用者居住地分布（令和5年3月31日現在）

居住地区	男性	女性	合計
松原	4	0	4
宇佐美	4	1	5
荻	0	2	2
川奈	0	1	1
十足	3	0	3
富戸	1	2	3
湯川	2	0	2
吉田	0	1	1
竹の内	0	1	1
東松原町	1	0	1
岡広町	0	1	1
竹の台	1	0	1
合計	16	9	25

f 年齢分布（令和5年3月31日現在）

年齢範囲	男性	女性	合計
18歳未満	0	0	0
18歳～19歳	0	0	0
20歳～29歳	1	2	3
30歳～39歳	4	1	5
40歳～49歳	2	3	5
50歳～59歳	9	1	10
60歳～65歳	0	2	2
合計	16	9	25

平均年齢：45.5歳 男性：46.6歳 女性：43.6歳

2 伊東市児童・身体障害者福祉センターはばたき

（1）総括

新型コロナウイルス感染防止対策として、一昨年度から実施している消毒や、換気（窓開け）を引き続き徹底しており、当施設における感染と思われる案件はありませんでした。

設備面においては、一昨年度から実施している照明設備のLED化を継続中で、今年度中の実施とはなりませんでしたが、市の予算が付いた1階浴室脱衣所と2階相談室について、令和5年度4月に実施する予定です。老朽化した空調設備については、市の今年度予算で1階喫茶室、事務室、2階訓練室、社会適応訓練室、3階集会室の設備交換を実施しました。同じく老朽化しているボイラー設備については、次年度（令和5年度）9月の実施が決定し、日程調整中です。

（2）実施状況

ア 次年度への課題

新型コロナウイルス対応については、利用者が安心安全に利用できる感染対策を継続しつつ、感染法上の5類移行後は市福祉課の指導に従って対策を見直し、利用者の負担を軽減していきます。

照明設備のLED化推進は、まだ遊戯室・体育室等の利用頻度の高い部屋が残っており、令和5年度も予算を勘案し推進予定です。

空調設備及びボイラー設備の改善については、市の実施計画が具体化しているので、計画とおり実施できるよう市・施工業者に協力します。

(3) 利用実績

区分		令和3年度		令和4年度	
利用回数・人員		回	人	回	人
1階 遊戯室	福祉活動	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0
2階 図書室	福祉活動	0	0	6	32
	会議研修	3	13	5	35
	その他	17	97	53	286
	小計	20	110	64	353
2階 訓練室	福祉活動	14	103	2	12
	会議研修	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	小計	14	103	2	12
3階 集会室	福祉活動	49	526	99	1,169
	会議研修	63	599	92	865
	その他	155	1,613	229	2,557
	小計	267	2,738	420	4,591
3階 調理室	調理実習	21	189	13	114
	小計	21	189	13	114
3階 視聴覚 室	福祉活動	20	263	55	554
	会議研修	93	762	129	1,307
	その他	172	1,159	232	1,565
	小計	285	2,184	416	3,426
3階 録音室	福祉活動	1	15	5	13
	会議研修	76	294	84	296
	その他	9	50	20	124
	小計	86	359	109	433
合計	福祉活動	84	907	177	1,854
	会議研修	235	1,668	310	2,503
	調理実習	21	189	13	114
	その他	353	2,919	534	4,532
	計	693	5,683	1,034	9,003

3 伊東市児童館

(1) 総括

コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての行事や教室について、感染予防の工夫をしながら実施の方向で準備を進めてきました。

昨年に引き続き、最も大きな行事の児童館フェスタは、中央児童館3日間と玖須美児童館2日間で別々に開催して来館者を分散させたり、共同で行うゲームを控えたりして密を避けながら実施しました。さらに各教室は、広い部屋の使用、換気や消毒、個別に材料や用具を使用するなどを配慮しながら実施しました。

未就園児が減少する中で、近隣の保育園と連携し、お遊び会に参加していただき、一般の乳幼児との交流を深めました。

利用頻度の高い中央児童館では、各部屋の入場者数や体育室の利用時間を制限し、クラスター発生の防止に努めました。

幼稚園や小学校が統廃合されるなど少子化が進む中、子供たちの健全育成と保護者の交流・情報提供の場を今後も続けていきます。

(2) 中央児童館実施状況

ア 月行事

月	内 容	参加 人数	月	内 容	参加 人数
5	わくわく3 days	70	12	お飾り作り(予約制)	4
8	料理教室	中止	12	書初め教室	中止
8	習字教室	中止	1	おみくじで新春運試し	45
10	ハロウィンちょこっとゲーム	83	3	幼児お楽しみ会 (予約制)	19
12	クリスマス週間・ツリー倒しゲーム	88	3	お楽しみ会	52
年間計					361

(ア) 本年度の取り組み

児童館フェスタは、本年度もゴールデンウィーク中にわくわく3 days として3日間に分散して実施しました。他の行事に関しても、密を避ける・日数を増やして分散する・内容を変更するなどして、コロナ禍でも子供たちが楽しめるよう工夫して実施しました。

外部から講師を迎える行事に関しては、感染状況を考慮して中

止としました。

(イ) 次年度への課題

社会が with コロナの生活様式になりつつある中、安全安心を心がけながら、子供たちが楽しい時間を過ごせる行事を提供していきたいと思います。

イ 折り紙教室（第4土曜日）

月	内 容	参加人数
4	端午の節句 飾り小箱(兜と菖蒲を折る)	2
5	ミニギフトカード(イチゴを折る)	6
6	七夕飾り(くす玉 短ざく 七夕飾り)	11
7	風鈴	2
8	ミニオン小物入れ	0
9	ピラミッド型ポプリ入れ	警報にて中止
10	ハロウィンリース	8
11	クリスマスツリー	1
12	お正月飾り 張り子の犬(予約制) ※2部制で実施	行事・ハトメイトと 共同実施 3
1	飛行機	0
2	おひな様	0
3	キャラクター お守り袋	2
年間計		35

(ア) 本年度の取り組み

持ち帰って飾りやすいような工夫をしました。小学生の来館者が減り参加者も少なくなりましたが、作品に興味を持ち熱心に取り組んでいました。

(イ) 次年度への課題

引き続き密を避け、広い部屋で距離を保ち、人数制限をして行います。また、折り紙を通して達成感や満足感が得られるよう工夫していきます。

ウ 幼児お遊び会（第2火曜日）

月	内 容	参加人数
4	こいのぼり作り	2
5	ピエロに玉入れ	0
6	父の日プレゼント	4
7	さかなつり	4
9	動物になって遊ぼう	0
10	ハロウィン ゆらゆらおばけ	2
11	つみつみツリー	5
12	※クリスマス週間で参加	
1	アンパンマンの福笑い	2
2	にっこりひなバック作り	2
3	おたのしみ会 買い物ごっこ（予約制）	19
年間計		40

（ア）本年度の取り組み

感染症対策を十分行い、参加する幼児の発達年齢を考慮し、楽しい雰囲気を作りながら、実施しました。

残った材料等は、後日来館した親子にプレゼントしました。

（イ）次年度への課題

少子化、支援センターの充実、感染症拡大など様々な要因から参加者が激減しています。次年度からはバースデーカードプレゼントとお買い物ごっこ（3月）を提供し縮小していきます。

エ お琴教室（第3土曜日）

月	内 容	参加人数	月	内 容	参加人数
※外部講師を招いての教室のため、本年度は開催しませんでした。					
年間計					0

（ア）本年度の取り組み

コロナウイルス感染拡大防止のため、教室を開催しませんでした。

（イ）次年度への課題

再開された場合は、感染防止対策をとりながら来館した子供たちが参加しやすいようにロビーで教室を予定しています。琴という珍しい和楽器の音色の美しさや弾くことの楽しさを感じてもらえるように多くの児童・幼児に声をかけていきます。

オ ハンドメイド（第2土曜日）

月	内 容	参加人数
4	紙コップ工作(1) フリスビー	0
5	母の日プレゼントカード	2
6	紙コップ工作(1) フリスビー	4
7	飛び出すうちわ	5
8	紙コップ工作(2) 小さな飾りかご	0
9	風船スクイーズ	7
10	紙コップ工作(2) 小さな飾りかご	0
11	クリスマスのミニオーナメント	0
12	お飾り用しめ縄(予約制) ※2部制で実施	行事・折り紙と共同実施 4
1	紙コップ工作(2) 小さな飾りかご	0
2	毛糸のカップケーキ	0
3	ボール落とし	1
年間計		23

(ア) 本年度の取り組み

昨年度より参加人数は減りましたが、参加する子供たちは当日教室に参加する目的で来館し、作品を作り上げる楽しさを十分に味わっていました。

(イ) 次年度への課題

引き続き感染症対策を行いながら、安心安全に「作る喜び」や「遊ぶ楽しさ」を味わえるような題材選びや環境を工夫していきます。

カ 来館者人数

月	来館者人数	月	来館者人数
4	446	10	414
5	370	11	354
6	414	12	391
7	347	1	348
8	341	2	486
9	289	3	822
年間計		5,022	

(3) 玖須美児童館実施状況

ア 季節行事

月	内 容	参加人数
5	わくわく 2 days	17
6	生け花	13
7	縁日ごっこ	74
9	卓球大会	10
1 1	お茶教室	8
1 2	クリスマス週間	48
1	新春お楽しみ週間	32
3	お楽しみ週間	41
年間計		243

(ア) 本年度の取り組み

集会はできない月もありましたがクリスマス週間、新春お楽しみ週間、お楽しみ週間など行事の持ち方や内容を工夫して楽しめるようにしました。

(イ) 次年度への課題

内容を考慮しながら引き続き行います。ポスターの掲示、新聞掲載、子供たちへの声かけ等周知に努めます。

イ 幼児お遊び会

月	内 容	参加人数
4	手遊び・紙芝居・体操	7
5	スタンプ遊び	11
6	絵本・体を動かして遊ぼう	19
7	水遊び(水鉄砲・シャボン玉)	2
9	紙芝居・小麦粉粘土	11
1 0	運動会ごっこ	0
1 1	絵本・クリスマス飾り作り	20
1 2	お話会	9
1	体を動かして遊ぼう(ミニミニ運動会)	16
2	絵本・お店屋さんごっこ	20
3	エプロンシアター・手品	10
年間計		125

(ア) 本年度の取り組み

コロナウイルス感染症や1～2歳児から就園する子が増えているため、参加人数が減っています。

(イ) 次年度への課題

参加しやすい日程や内容の工夫をし、近隣の保育園も無理なく参加できるようにします。

ウ 作って遊ぼう

月	内 容	参加人数
4	ロケットを作ろう	9
5	モビール作り	5
6	クラフトハンド制作	8
7	七夕飾りを作ろう	12
8	牛乳パックで不思議な飾り絵を作ろう	3
9	プリザーブドフラワーを作ろう	25
10	キラキラボトルを作ろう	5
11	クリスマス飾り作り	13
12	お飾り作り	16
1	ふわふわくらげと遊ぼう	4
2	マグネット作り	8
3	迷路で遊ぼう	17
年間計		125

(ア) 本年度の取り組み

低学年や幼児の参加も考慮し、簡単にできてその場で遊べる内容にしました。また、自分なりに工夫して作る満足感も味わえるよう材料を選択したり、好きな物や模様を描いたりできるように準備しました。

(イ) 次年度への課題

子供たちの状況をふまえ、参加しやすい日程や内容の工夫をします。

作品の展示、ポスターの掲示、声かけなどの周知も積極的に行います。

エ Let's Enjoy!

月	内 容	参加人数
4	イースターエッグ	13
6	アニマルフラワー	19
8	タイルでフォトスタンド	11
10	Halloween!	11
12	クリスマス チョークアート	10
2	バレンタイン	16
年間計		80

(ア) 本年度の取り組み

ソーシャルディスタンスを考え、隔月に楽しい外国のイベントや子供たちの関心のあることに合わせて、簡単な英語の会話や表現を取り入れた歌やゲームをしました。

(イ) 次年度への課題

ゲームを通して、簡単な英会話やアルファベットを取り入れた楽しい内容を考えていきます。

オ 来館者人数

月	来館者人数	月	来館者人数
4	183	10	245
5	140	11	162
6	157	12	153
7	268	1	141
8	164	2	212
9	182	3	276
年間計		2,283	

令和4年度

さくらグループ拠点区分

事業報告書

第1 さくらグループ（共同生活援助事業）

1 総括

利用者の高齢化に伴い加齢による心身の機能低下や、持病治療の疾病対策等の健康管理を重点的課題とし支援を行いました。世話人や生活支援員による日常生活全般に関するサービス提供を行い、地域社会において、安全で安心できる暮らしへの配慮を行っています。

引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行いながらの生活環境でしたが、食事面において希望メニュー、デリバリー等の利用や、個別での対応をできる範囲で実施しました。また、感染者が発生した状況により昼間の通所先に行くことができない日は、グループホームにおいて日中支援の職員体制を整え、サービス提供を実施しました。

令和4年11月、1名の方が新型コロナウイルス感染症に罹患し、保健所の指導の下、感染症拡大防止対策の対応を行いました。

2 実施状況

（1）内容と効果

ア 安心した生活のための対応

（ア）感染防止対策のもと、楽しく生活できるよう個人の趣味嗜好を重視した支援を心掛け、ストレスの軽減や精神面の安定を図りました。

（イ）手洗い、消毒、うがい、定期換気等の感染症予防対策を実施しました。

イ 健康の管理

（ア）朝の検温測定（冬期は夕方も実施）、酸素濃度測定その他、個々に必要とする方の血圧測定や排便状況、血糖値測定の確認を、ご本人各ホームのスタッフで行い、体調面の把握に努め、通院時のデータになるよう把握に努めました。また、日中の通所事業所と検温数値の情報共有にも努めました。

（イ）急病時の通院支援が必要な時は、サービス管理責任者、生活支援員、ホームスタッフおよびバックアップ施設によるサポートを行いました。

（ウ）定期的な通院支援が必要な利用者には、ヘルパー付添いやホームスタッフ、生活支援員、サービス管理責任者等による支援を行いました。

（エ）継続的な疾病治療や薬の管理が必要な利用者へのサポートを、医師の指示のもと行いました。

（2）職員研修

ア 虐待防止研修を2回実施し、支援が困難な利用者の情報共有に関する

る事や、不適切支援事例のロールプレイの検討等の研修を行いました。

- イ 事業所内の虐待防止委員会の体制を再構築しました。委員会参加者は各グループホームの代表者、虐待防止マネージャー、管理者です。毎月委員会を実施し、ホームの状況の情報共有や、困っている事、研修等について話し合っています。

- ウ 各ホーム会議 2 ホーム毎、隔月開催

(3) 金銭の管理

- ア 預貯金の管理について

- (ア) 入出金への対応、また金銭管理の方法について利用者への支援を行いました。

- (イ) 預金残高報告書を作成し、保護者への情報提供を行い、安定した経済活動が維持できました。

- イ 利用者への支援について

- (ア) 計画的な金銭の使い方や小遣い管理等の支援を行うことで、安定した入出金ことができました。

(4) 防災関係について

- ア 年2回防災訓練を実施しました。

3 さくらグループ利用状況

さくら荘 定員 9名	令和3年度		令和4年度	
	延べ人数	利用率 (%)	延べ人数	利用率 (%)
4月	266	98.5	266	98.5
5月	275	98.6	275	98.6
6月	266	98.5	265	98.1
7月	275	98.6	267	95.7
8月	277	99.2	274	98.2
9月	268	99.2	265	98.1
10月	277	99.3	273	97.8
11月	266	98.5	265	98.1
12月	257	92.1	266	95.3
1月	272	97.5	270	96.8
2月	250	99.2	245	97.2
3月	275	98.6	272	97.5
合計／平均	3,224	98.1	3,203	97.5

せが荘 定員 7名	令和3年度		令和4年度	
	延べ人数	利用率 (%)	延べ人数	利用率 (%)
4月	210	100.0	209	99.5
5月	216	99.5	217	100.0
6月	210	100.0	210	100.0
7月	215	99.1	217	100.0
8月	217	100.0	217	100.0
9月	206	98.1	210	100.0
10月	217	100.0	213	98.2
11月	210	100.0	210	100.0
12月	215	99.1	214	98.6
1月	215	99.1	213	98.2
2月	195	99.5	196	100.0
3月	216	99.5	217	100.0
合計／平均	2,542	99.4	2,543	99.5

ふ じ の 花 定員 4 名	令和 3 年度		令和 4 年度	
	延べ人数	利用率 (%)	延べ人数	利用率 (%)
4 月	111	92.5	90	75.0
5 月	123	99.2	93	75.0
6 月	120	100.0	90	75.0
7 月	124	100.0	95	76.6
8 月	110	88.7	93	75.0
9 月	118	98.3	90	75.0
10 月	116	93.5	107	86.3
11 月	120	100.0	114	95.0
12 月	109	87.9	120	96.8
1 月	91	73.4	120	96.8
2 月	84	75.0	112	100.0
3 月	93	75.0	124	100.0
合計／平均	1,319	90.3	1,248	85.4

*令和4年7月、10月、11月体験利用者1名あり。

*令和4年12月付で1名新規入所者あり。

か え で 定員 10 名	令和 3 年度		令和 4 年度	
	延べ人数	利用率 (%)	延べ人数	利用率 (%)
4 月	300	100.0	300	100.0
5 月	310	100.0	282	91.0
6 月	300	100.0	300	100.0
7 月	310	100.0	310	100.0
8 月	310	100.0	310	100.0
9 月	293	97.6	299	99.7
10 月	310	100.0	308	99.4
11 月	310	100.0	277	92.3
12 月	305	98.4	275	88.7
1 月	306	98.7	275	88.7
2 月	280	100.0	261	93.2
3 月	310	100.0	296	95.5
合計／平均	3,644	99.8	3,493	95.7

*令和4年5月2名入院者あり。

*令和4年12月1名退所、令和5年2月、3月体験利用者1名あり。

令和 4 年度

奥野苑拠点区分

事業報告書

第1 特別養護老人ホーム奥野苑

1 総括

特別養護老人ホーム奥野苑においては、従来の感染症対策に加え、新型コロナウイルス感染予防対策を重点的に講じてきましたが、令和4年5月3日新型コロナウイルス感染者が確認され、収束までに利用者（入居者・ショートステイ利用者）、職員合わせて49名の感染者となりました。

令和4年度は退所者が22名と例年より多いものの、昨年度より実施している優先入居上位者を奥野苑短期入所生活介護事業所で長期利用できるよう調整し、特養の空床が出た翌日には即入居ができるようにしました。その結果、99.54%の利用率を得ることができました。

2 実施状況

(1) 入居者の日常生活の充実

入居者には、新型コロナウイルス感染予防対策により外出やレクリエーション、ご家族との面会等を控えていただいたことにより、お楽しみの1つとして食べたい物をアンケート調査し、出前をとることで楽しいひと時を送っていただくことができました。

(2) 食事について

施設は入居者の生活の場であり、食事は入居者にとって生命の源であるとともに最大の楽しみであることを常に念頭に置き、季節感のある変化に富んだ食事を提供できるように心がけました。

また、個々のアセスメントに基づいた栄養ケアプラン作成に取り組み、食におけるニーズの確認やその課題における共通認識から多職種で連携し入居者の栄養改善及び処遇向上に努めました。

(3) 保健・衛生について

入居者が安心して生活ができるよう日々の健康管理を行いました。日々の介護、看護の中で嘱託医である高野医師の指導の下、確実なテクニックや知識、対策の検討を重ね、新型コロナウイルスや他の感染症についても皆で共有し、急変時においても迅速な対応をすることができました。

(4) 防災対策について

月1回行う防災訓練に加え、火災や大規模災害に備えるため10月に総合防災訓練を実施しました。実施に伴い伊東市消防団第1方面隊（湯川・松原・玖須美・新井・岡・鎌田）及び第2方面隊（川奈・吉田・荻・十足）の協力を得ることができました。

(5) 施設内修繕について

ア 厨房の埋設された排水管の損傷に伴う、配管修繕を行いました。

3 利用実績

(1) 延べ利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
令和 4 年度	1,500	1,530	1,499	1,548	1,548	1,482	
令和 3 年度	1,492	1,550	1,500	1,550	1,550	1,487	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
	1,550	1,481	1,540	1,549	1,392	1,548	18,167
	1,525	1,500	1,550	1,537	1,396	1,540	18,177

(2) 面会者来苑状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
令和 4 年度	22	7	27	32	3	10	
令和 3 年度	21	7	0	0	0	0	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
	31	36	28	9	9	13	227
	38	41	79	27	0	8	221

※伊東市内外の新型コロナウイルス感染状況を考慮し、感染症防止委員会で面会の可否について検討しました。

(3) 月別入退所者数

	入所の状況					退所の状況		
	家庭	病院	老健	養護老人ホーム	有料老人ホーム	死亡	病院	家庭
4 月								
5 月						2		
6 月	3					1		
7 月	4					4		
8 月	1					1		
9 月	2		2			4		
10 月								
11 月			1			2		
12 月	2						1	
1 月	1						1	
2 月	4					4		
3 月	2					2		
計	入所者数 22 名					退所者数 22 名		

第2 奥野苑指定短期入所生活介護事業所

1 総括

令和4年5月3日、特養入居者より新型コロナウイルス感染者が発生したことから5月末までサービス受け入れを中止しました。令和5年2月には、特養にてノロウイルス感染者が発生したことから、事業を休止したことで大幅な稼働率の低下となりました。

利用率低下の要因の一つとして、新規利用者数は増加しましたが、一時利用に留まることが多く、定期利用へ結びつかずそのまま老健施設へ入所する方が多かったことも考えられます。

2 利用実績

	令和3年度（延べ利用者数）			令和4年度（延べ利用者数）		
	一般	介護予防	計	一般	介護予防	計
4月	548	0	548	473	9	482
5月	573	6	579	317	0	317
6月	478	0	478	405	8	413
7月	547	0	547	434	10	444
8月	623	9	632	439	8	447
9月	521	0	521	383	9	392
10月	504	6	510	448	9	457
11月	476	8	484	399	0	399
12月	577	10	587	389	8	397
1月	513	8	521	473	0	473
2月	423	27	450	370	0	370
3月	500	9	509	375	0	375
計	6,283	83	6,366	4,905	61	4,966

第3 奥野苑デイサービスセンター

1 総括

新規利用者数は増加しましたが、5月（特養入居者より新型コロナウイルス感染者が発生したことから5月末まで事業を中止）と12月（デイサービス利用者及び職員から新型コロナウイルス感染者の発生）の2回にわたり、サービスを休止せざるを得ないことから利用率が減少となりました。

年間行事に関しては、新型コロナウイルス感染予防の観点より中止することもありましたが、感染対策を行いながら慎重に行うことで利用者から大変

喜ばれました。

2 年間実施行事

	行事名	内容
4 月	お楽しみ昼食	従来の回転寿司は、感染予防の観点より実施することができませんでしたが、個々にメニューから選択してもらい召し上がっていただきました。
5 月	端午の節句	サービス休止のため行事は中止しました。
7 月	七夕祭り	笹の葉に飾り付けし、一人一人願掛けしました。
8 月	おやつ レクリエーション	アイスクリームに好きなフルーツを盛り付けしてもらいました。
9 月	敬老会	喜寿、米寿等該当者の表彰を行いました。
11 月	焼き芋会	焼きたての焼き芋を提供しました。
12 月	クリスマス会	サービス休止のため行事は中止しました。
1 月	お正月会	お正月の遊びや飾り付けを楽しみました。
2 月	節分会	鬼に豆をまき厄払いをしました。
3 月	桃の節句	雛人形を飾り記念撮影をしました。

3 利用実績

	令和 3 年度実績（延べ利用者数）			令和 4 年度実績（延べ利用者数）		
	一般	総合事業	計	一般	総合事業	計
4 月	452	63	515	495	58	553
5 月	487	60	547	225	24	249
6 月	508	59	567	516	52	568
7 月	523	60	583	530	46	576
8 月	493	59	552	440	50	490
9 月	458	63	521	458	52	510
10 月	422	60	482	486	61	547
11 月	464	56	520	517	62	579
12 月	455	54	509	319	39	358
1 月	436	43	479	428	50	478
2 月	427	46	473	455	48	503
3 月	496	53	549	518	37	555
計	5,621	676	6,297	5,387	579	5,966

第4 奥野苑ヘルパーステーション

1 総括

前年度と比べ、新規利用者の依頼をいただき、一般・総合事業ともに利用者数も増やすことができました。

また、新型コロナウイルス感染予防対策を重点的に講じ、利用者が安心してサービスを利用できるよう努めました。

2 利用実績

	令和3年度実績（延べ利用者数）			令和4年度実績（延べ利用者数）		
	一般	総合事業	計	一般	総合事業	計
4月	189	230	419	294	216	510
5月	189	196	385	346	203	549
6月	227	196	423	292	239	531
7月	211	207	418	348	240	588
8月	202	185	387	347	221	568
9月	254	192	446	363	205	568
10月	330	191	521	364	263	627
11月	354	207	561	382	249	631
12月	299	213	512	343	235	578
1月	273	188	461	312	223	535
2月	307	198	505	303	242	545
3月	331	258	589	329	269	598
計	3,166	2,461	5,627	4,023	2,805	6,828

第5 奥野苑指定居宅介護支援事業所

1 総括

令和4年度から城ヶ崎いこいの園指定居宅介護事業所との統合により、職員が3名から5名体制となったことで、積極的に新規利用者の受け入れをすることができました。前半は特養のみならず、市内での新型コロナウイルス感染拡大より訪問を控えることがありましたが、ケアプラン作成数は、昨年度に比べ、要支援・要介護ともに増加することができました。

2 実施状況

（1）居宅サービス計画の作成

利用者の心身の状況や家族の希望などを把握し、必要なサービスを提案し、居宅サービス計画の原案を作成説明を行い利用者や家族の同意を得ら

れるよう努めました。

(2) アセスメント・モニタリング

利用者の状況やサービス実施状況などの情報を収集し、利用者のニーズや解決すべき課題を抽出しました。新型コロナウイルス感染拡大時期は、電話やメールでのやり取りとなりましたが、サービス事業所と情報共有し、目標達成に向け適切に対応できるよう努めました。

(3) 給付管理業務

区分支給限度額の管理に留意し、利用者の負担軽減に努めるとともに、介護報酬請求において、実績の確認を行いサービス事業所との相違が無いよう努めました。

(4) 相談業務

利用者からの相談を受け、介護認定申請の援助、介護保険サービスについての説明を行いました。

(5) 訪問調査

市から依頼のあった、要支援・要介護認定調査を実施しました。

(6) 職員研修

小室圏域の意見交換会や勉強会、市内外のオンライン研修などに積極的に参加し、職員の研鑽に努めました。

3 利用実績

	令和3年度実績		令和4年度実績	
	ケアプラン作成		ケアプラン作成	
	要支援1、2 (委託)	要介護度 1～5	要支援1、2 (委託)	要介護度 1～5
4月	18	92	32	149
5月	18	90	34	152
6月	17	92	36	159
7月	17	93	35	154
8月	18	91	33	152
9月	20	89	39	154
10月	18	90	37	153
11月	19	93	36	149
12月	19	94	36	151
1月	17	91	33	145
2月	14	83	33	142
3月	15	86	34	143
計	210	1,084	418	1,803

第6 小室地域包括支援センター

1 総括

新型コロナウイルス感染症の影響月もありましたが、後半にかけて、市内の感染状況も落ち着き、概ね例年通りの活動を行うことができました。

ケアマネジメントプラン数は概ね維持となり、総合相談は増加傾向にありました。地域ケア会議では『共生型居場所の創出』に向けて、地域住民や関係者に集まっていただき、様々な意見を頂くことができました。『こむろタイムズ』という機関誌を2ヶ月に1回、圏域内の町内に回覧板で閲覧していただくことにより周知、啓発に繋がりました。会議や研修はオンラインでの開催が基本となる中、積極的に参加しました。主な活動としては高齢者の居場所支援、サロン・認知症カフェの開催等となりました。

2 実施状況

(1) 要支援1・2 介護予防ケアマネジメントプラン

区 分	直 営		委 託	
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業対象者給付管理数	268	326	2	12
要支援①総給付管理数	574	516	317	324
要支援②総給付管理数	667	670	826	841
うち新規契約分	42	43	43	41
うちプラン継続分	1,467	1,469	1,102	1,177

(2) 会議等開催状況

運営状況	令和 3 年度	令和 4 年度	運営状況	令和 3 年度	令和 4 年度
地域づくり会議	55	70	関係団体の会議	6	10
包括会議	12	9	研修会	32	42
包括部会	9	10	その他	5	15
ケアマネ部会	0	1	合 計	119	157

3 利用実績

(1) 相談実績（内訳）

相談件数	令和3年度	令和4年度
来所	166	158
訪問	2,087	1,872
電話	2,792	3,081
その他	476	330
合 計	5,521	5,441

(2) 相談内容（内訳）

相談内容	令和3年度	令和4年度
介護保険（介護予防）に関する相談	3,444	4,068
認知症等に関する相談	267	242
在宅介護に関する相談	304	271
施設入所に関する相談	130	116
医療に関する相談	1,101	844
住宅改修・福祉用具に関する相談	377	266
権利擁護・成年後見制度に関する相談	26	19
虐待に関する相談	49	25
その他（家族・障害・経済問題等）	816	802
合 計	6,514	6,653

第7 奥野苑介護予防事業所

1 総括

伊東市からの受託事業で、伊東市が行う5学年と介護認定を受けていない独居及び高齢世帯者の対象高齢者への基本チェックリストを基に、伊東市が選定した一般介護予防事業・通所型サービスC教室型対象者に対し、地域ごと（川奈・吉田・荻・十足）に教室案内を郵送、回覧板・広報いとうへの掲載を行い、参加者を募り、介護予防教室を開催しました。

教室では、参加者がいつまでも健康で生きがいを持ちながら日常生活を送り、普段の生活の中でも楽しく活用できる体操の紹介や指導を行いました。また、本年度より栄養講座に加え歯科講座が追加され実施しました。

2 一般介護予防教室開催状況

地域（会場）	参加登録	参加延数	開催期間
荻 （生涯学習センター）	21名	180名	4月7日～7月7日 毎週木曜日 10回
川奈 （小室コミセン）	27名	216名	4月15日～7月22日 毎週金曜日 10回
荻 （生涯学習センター）	11名	91名	9月1日～11月17日 毎週木曜日 10回
十足 （南一碧台自治会館）	14名	95名	5月2日～8月1日 毎週月曜日 10回

3 通所型サービスC教室型教室開催状況

地域（会場）	参加登録	参加延数	開催期間
4 地域 （小室コミセン）	8 名	80 名	9 月 2 日～11 月 25 日 毎週金曜日 12 回
4 地域 （生涯学習センター）	8 名	92 名	12 月 8 日～3 月 9 日 毎週木曜日 12 回

第8 生活支援体制整備事業所

1 総括

伊東市からの受託事業で、歳を重ねても住み慣れた自宅や地域で生活できるよう高齢者を地域で支える仕組みづくりや助け合い活動を進める生活支援サービス提供体制づくりを行いました。前半は新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員として事業を推進しました。

2 実施状況

（1）生活支援サポーター養成講座の開催

伊東市高齢者福祉課、第一層及び第二層生活支援コーディネーター等の協力により、市民を対象に生活支援の担い手の養成を図りました。

開催日	場所	内容
令和4年6月3日（金） 24日（金） 令和5年2月8日（水）	宇佐美コミセン 八幡野コミセン 市地下会議室	事業説明、地域づくり、認知症サポーター養成講座、高齢者とのコミュニケーション、会員登録

（2）協議体会議の開催

令和4年8月31日（水）10時～12時

生涯学習センター荻会館2階和室にて

小室圏域 移動支援ボランティア説明会を開催しボランティア登録を行いました。

（3）生活支援サポーター事業、事業報告会、フォローアップ研修の開催

令和4年7月29日（金）市低層棟2階中会議室にて、やる気あるサポーターが活躍することで、住民主体の地域づくりの推進を目的にフォローアップ研修を開催し、令和3年度の活動報告やシルバー人材センター、しずおかジョブステーションの活動紹介を行いました。

（4）運転ボランティア養成研修の開催

令和4年9月28日（水）午前10時～11時30分 市地下会議室
午後1時～4時

マジオドライバースクール熱海校

運転ボランティアによる活動紹介、参加者の技術習得や能力向上を図ることで意欲ある市民の育成を行いました。

(5) 生活支援サービスの需給調整

実施状況	件数	支援回数
無償（軽微な生活支援）	84 件	299 回
有償（生活支援）	23 件	25 回

(6) 関係機関とのネットワーク強化

伊東市高齢者福祉課及び第1層生活支援コーディネーター、市内各圏域第2層生活支援コーディネーターとの定例会議を開催し、連携強化及び情報共有を行いました。

(7) 事業推進及び地域づくりのための啓発活動

小室圏域内の居場所（11ヶ所）の訪問、小室地域包括支援センター主催のサロン（2ヶ所）、認知症カフェ（1ヶ所）の活動支援を行い、事業の周知、啓発を行いました。

(8) 認知症地域支援推進員

認知症であってもなくても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、本人の視点に立った取組みを展開し地域づくりの役割を担い、行政、高齢者福祉課に配置した認知症地域支援推進員、各圏域の認知症地域支援推進員、チームオレンジコーディネーター等と協力し地域支援体制作りの取組みを行いました。

令和4年度

ケアハウス拠点区分

事業報告書

1 総括

ケアハウスハーモニーおくのでは法人の理念に基づき、コロナ禍における不安や孤独感の解消を図るとともに、安心かつ充実した生活が送れるよう、心身両面での支援に努めました。

新型コロナウイルス感染対策を最優先しながらも、継続する自粛生活のなか重点目標の達成に向け、職員一丸となり取り組みました。

2 重点目標に対する取り組みと成果

「感染予防対策の徹底」「身体機能の現状維持」達成のため、職員間の連携をさらに密にしたことによる情報共有を、きめ細やかなサービス提供につなげることができました。また、新型コロナウイルス感染防止のため、様々な情報収集に努めるとともに、感染蔓延状況に応じた対応を図り、館内にウイルスを持ち込まないことを最優先に必要な対策を講じました。

結果、個々においては行動範囲の縮小による筋力低下は避けられず、次年度の課題として残りましたが、感染症の蔓延もなく一年を過ごすことができたことは成果と感じます。

3 実施状況

(1) 食事について

食事は、季節感や旬の物を積極的に取り入れ、バラエティに富んだ内容となるよう心掛けました。職員献立日には、食事を更に楽しんでいただけるよう味はもちろん雰囲気や見た目にも配慮しました。バイキングメニューでは、毎月のメニュー充実とともに食欲減退の夏期においては、入居者の喜ぶメニューを盛り込み、食欲増進と体力低下防止に努めました。さらに、入居者の嗜好や身体状況の変化を考慮し、臨機応変に対応することができました。

(2) 入浴について

月～土曜日の15:00～22:00の入浴時間に、入居者が快適に入浴できるよう準備を整えました。(夏期については日曜日シャワー浴実施) またレジオネラ水質検査も年2回実施を厳守し浴室の衛生面についても充分留意しました。

(3) 園内美化について

入居者が快適に生活していただけるよう日頃より清掃を行い、園内美化の維持・向上に努めました。

(4) 各種相談について

入居者の生活全般にわたり、各種の相談に応じるとともに必要時には関係機関の紹介等の援助も行い、日頃より信頼関係の構築に努めました。ただし、金銭に関する相談については身元引受人に連絡し施設側は関与しないことを継続して徹底しました。

(5) 緊急時の対応について

入居者の緊急事態の際は各機関と連携し、迅速な対応に努めました。
災害等に関しても日常より防災を心掛けるとともに、万一の事態に備え常に万全の管理体制がとれるよう配慮しました。

(6) 処遇上の留意点について

ア 介護予防の実践

コロナ禍で集団での活動ができない中、身体機能及び認知機能の低下防止を目的として、「は一もに一新聞」を活用した紙面での脳トレや体操など個々でできる活動に切り替え支援しました。職員も介護予防的要素を取り入れていく中で、提供するものを探求するとともに、入居者に対し必要な情報提供に努めました。外部講師を招き専門的な講座・実技を行う「外部わらわら」はすべて中止としました。

イ 季節感ある行事と外出

コロナ禍により活動を自粛し、代替えとしてでりばりーを随所に取り入れ外食の気分を味わっていただきました。

ウ 入居者に対する共通認識

申し送りや定期会議の中で、全体や入居者一人一人の情報交換・意見交換の実施により、共通認識の徹底に努め共通した対応に尽力しました。

(7) 保健衛生について

年々変化する入居者の心身状況を、バイタルチェックや日常会話等から把握することにより、早期対応に努めました。

入居者には年一回、各自かかりつけ医にて健康診断を実施していただき、一人一人の健康状態の把握に努めました。

さらに状況調査を年一回行い、身体状況の把握、加えて精神面でのケアに努め、入居者の変化に対し早期発見・早期対応を心掛けました。

なお、日頃より衛生面には十分な配慮を行うとともに、感染症・食中毒対策委員会を開催し、その結果を反映させ、季節性の流行病（インフルエンザ・風邪・食中毒・ノロウイルス・脱水等）に対してはうがい・手洗いの励行や水分補給等の掲示・助言により注意喚起をおこない、必要時には通院にも同行しました。また、館内の温度・湿度設定にも十分配慮しました。

新型コロナウイルス対策としても毎日の検温体調チェック表の提出の継続実施のほか、日々の状況に応じた対応を迅速に行い、館内消毒の徹底、社会的距離の保持、面会の自粛など細心の注意を払いながら館内に持ち込まないことを最優先に努めました。ワクチン接種に対しても適宜サポートをおこない、全員4～5回接種を終了しました。

(8) 防災対策について

毎月一回入居者・職員が一丸となり、避難訓練を中心とした防災訓練

を実施しました。うち一回は夜間、二回は夜間想定により実施しました。

さらに、季節に応じ各居室の点検指導（暖房器具等）も適宜実施し、防災設備は業者が定期的に点検し、防災器具なども設置し、非常事態に対応できるよう配慮しました。

また、非常食や必要品の在庫・賞味期限のチェックを行い、常に万全の状態の確保を心掛けました。

（９）その他

ア 運転代行業務

買い物や通院、その他の用事で外出をされる入居者のため、月曜日～金曜日の午前（9:30 出発）と午後（3:00 出発）の二回、無償にて車を運行し、外出の支援を行いました。買い物については、新型コロナウイルス感染予防の観点から毎週水曜日他者との接触を最小限にするため、職員同行の元、近隣スーパーの開店時刻に合わせ対応しました。

イ 各種委員会の実施

事故防止検討委員会、感染症・食中毒対策委員会、身体拘束適正化対策委員会を、各々３か月に１回開催しました。

４ 延べ利用者数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
令和４年度	760	775	750	775	780	720	744	720	744	744	616	682	8,810
令和３年度	810	837	810	771	744	720	744	720	744	806	728	806	9,240

５ 月別入退去者数

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
令和４年度	入居													0
	退去	1				1						2		4
令和３年度	入居	1									3			4
	退去			1	2					1				4

令和4年度

ワークセンターやまもも

事業報告書

第1 ワークセンターやまもも

1 総括

コロナ禍3年目を迎えた令和4年度は第6波、夏の7波、冬の8波と感染のピークは続いたものの社会生活においては徐々にではありますがアフターコロナに向けた活動へ移行し、やまももにおいても下請け作業の増加や市民病院内の喫茶への来店者の回復、利用者の方々の縫製技術の向上や新たな販路の拡大また近隣住民との交流も増えてきた等活気ある活動ができた年度となりました。

今年度から義務化された虐待防止委員会では、毎月の委員会開催において研修事業、周知活動を重ね課題の抽出を継続して行っています。同時に緊急事態に備え、リスクを最小限にとどめ、安心して事業継続ができるようにBCPを作成しています。

また、事務作業の効率化を図ることを目的として今年度導入した記録システムにより利用者の方々とより多くの時間を共にすることができ支援時間を増やすことができました。

結果令和3年度を上回る工賃の支払い、就労への支援に結び付いています。

2 重点目標に対する取組と成果

令和4年度は、平均工賃目標額を17,500円としました。新型コロナウイルス感染症の影響が続いたためイベントの中止が続き販売の機会は少なくなりましたが、下請け作業が徐々に回復し目標工賃額を達成することができました。また、これを機会に新たな作業の開発や施設外就労先の開拓を積極的に行うことができました。

また、コロナ禍の状況ではありましたが、関係機関と協力して、企業実習に力を入れた結果、一般企業等へ2名就労することができました。

3 実施状況

(1) 利用状況

開所日数 257日

ア 就労移行支援事業

(ア) 定員 10名

(イ) 登録者(令和5年3月31日現在) 12名

(ウ) 年間平均利用者数 10人

イ 就労継続支援B型

- (ア) 定員 30名
- (イ) 登録者（令和5年3月31日現在） 27名
- (ウ) 年間平均利用者数 24.3人

(2) 各事業報告

ア 就労移行支援事業

- (ア) 日々の清掃業務や生産活動の中で、就労に必要な社会のルールやマナーの習得、日常生活に必要な知識習得に取り組めました。また、就労を見据えたスキルの向上にも取り組めました。
- (イ) 清掃の業務受託を通じ、現場で実践しました。
施設外就労参加者数 4名
- (ウ) 一般企業への新規就労者数 2名

イ 就労継続支援B型

工賃月平均支払額 20,274円（前年度 14,831円）

(ア) 手芸・縫製作業

- a 利用者の縫製技術が向上しクオリティーの高い商品を生産することができました。
- b 地域の方々よりオリジナル製品の注文を受け、生産性を高めるとともに積極的に新商品に挑戦しました。

(イ) 製パン作業

- a 感染症の蔓延により販売機会が大きく減少しました。対面での販売が出来なくなったため注文での販売に切り替え、販売数の確保に努めました。
- b 原材料費高騰等により商品価格の見直しを行いました。
- c 地域自治体より声をかけていただき、月に1度、朝市にて販売をしています。また、新たな販売先を開拓するなど新規販路拡大に努めました。
- d 伊東市役所市民ロビーで毎月開催していた『ここからマーケット』が、不定期ですが再開され、販売や障がいに対する啓発活動及び工賃向上を目指す活動を行うことができました。（手芸共通）

(ウ) リサイクル作業

積極的に回収へ行くことにより地域への周知に繋がりました。

(エ) 喫茶業務

- a 安心・安全に営業ができるように感染症予防を徹底し、自ら健康管理を心がける習慣ができました。
- b 来店者とのコミュニケーションを学ぶ機会を重視し、積極的に接客を行うことができました。
- c 店内にて手芸品、パン等を販売することによって、やまもも活動を周知することができました。
- d 新商品の開発、メニュー内容の変更また原材料高騰による価格の見直しを行いました。

(オ) 下請け作業

- a リネン、タオルたたみ
タオルたたみが主な仕事ではありますが、タオルへのステッチつけ等の仕事を積極的に請けることで工賃確保に繋がりました。
- b 商品梱包作業
インターネット販売の商品梱包作業を大口で頂くことができて作業量確保につながりました。
- c 箱折作業
色々な箱折り作業を積極的に受託することで、作業量を確保しました。

※a b c の作業は、新型コロナウイルスの影響を受けていましたが徐々に回復し工賃向上に繋がりました。

- d 施設外清掃
伊東市振興公社様からの公園清掃を9か所受託し週3日の契約で清掃に回っています。また、市内企業からは敷地内草刈りを継続して受託することができました。地域の方々に働く姿を見てもらうことにより活動の励みとなる機会となりました。

(カ) 農作業・農産物販売

耕運機を実際に作動させる体験を行いました。多くの作物を収穫することはできませんでしたが、農作業の大変さを実感することができました。

(3) 全体活動

ア 余暇支援

季節の行事を取り入れ、作業活動の活力としました。

イ 防災・避難訓練

火災、地震に対する避難訓練を実施し、有事の際には落ち着いた行動ができるように訓練を行いました。また、消防署の方を招き放水訓練の見学を実施しました。

ウ 健康相談

中伊豆温泉病院検診車による健康診断を実施し、生活習慣病等の早期発見に努めました。

エ 相談支援

ケア会議の開催、保護者、関係機関との連絡を密にすることにより課題解決に努めました。

オ 自治会・互助会活動

新型コロナウイルスの影響で、例年通りの活動はできませんでしたが規模を縮小して行事を行いました。

カ 感染症対策

(ア) 感染症研修に重点を置きました。

(イ) 保護者等に対し、新型コロナウイルスに対する対策の依頼、現状報告を都度通知し、家庭との情報共有を行いました。

(ウ) 密にならない部屋割りや、食事場所の飛沫感染防止、検温表の管理等施設内で行なえる対策を日々見直ししながら強化しました。

令和４年度利用者数実績報告書													
就労移行支援 定員10名													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
4 年度	217	226	241	195	203	218	206	211	198	189	213	246	2,563
3 年度	242	231	248	228	193	200	196	192	186	173	143	210	2,442
前年度比	△ 25	△ 5	△ 7	△ 33	10	18	10	19	12	16	70	36	121
日平均	10.3	10.3	11.0	9.3	8.8	9.9	9.8	9.6	9.9	9.5	10.7	10.7	10.0
就労継続支援 B 型 定員30名													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
4 年度	531	560	546	514	551	531	521	519	479	479	468	553	6,252
3 年度	614	566	586	577	583	547	550	578	525	510	511	559	6,706
前年度比	△ 83	△ 6	△ 40	△ 63	△ 32	△ 16	△ 29	△ 59	△ 46	△ 31	△ 43	△ 6	△ 454
日平均	25.3	25.5	24.8	24.5	24.0	24.1	24.8	23.6	24.0	24.0	23.4	24.0	24.3
2事業合計													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
4 年度	748	786	787	709	754	749	727	730	677	668	681	799	8,815
3 年度	856	797	834	805	776	747	746	770	711	683	654	769	9,148
前年度比	△ 108	△ 11	△ 47	△ 96	△ 22	2	△ 19	△ 40	△ 34	△ 15	27	30	△ 333
日平均	35.6	35.7	35.8	33.8	32.8	34.0	34.6	33.2	33.9	33.4	34.1	34.7	34.3

令和4年度

こもれび拠点区分

事業報告書

第1 生活介護事業所こもれば

1 総括

感染症対策を強化しながら、利用者が心地よく過ごせることを考え取り組みました。

送迎車両を1台増やしより多くの利用者の送迎を安全に行うよう対応しました。

活動はバランスよく行えるよう月や週の予定を組み立て取り組みました。

レクリエーション活動では使用する物を創作活動で手作りし、準備の段階から本番への工程でも楽しんでいただけました。

創作活動で行う壁画は四季折々のテーマで、利用者が担当した貼り絵をつなげ、出来上がった時の喜びで満足する顔がみれました。

行事ではダンスや楽器、歌の練習から利用者と職員で取り組み、本番では練習の成果を発揮することができました。

日常的に感染症対策や清掃を心掛け、定期的に会議を行い感染防止に努めました。

2 重点目標に対する取組と成果

- (1) リハビリ検討委員会を中心に利用者一人一人の運動機能の維持、向上を目的とし、効果的なリハビリを中伊豆リハビリの理学療法士の指導の下考えました。利用者の個別リハビリマニュアルを作成し、個別リハビリの時間に体を動かす活動として取り組み始めました。個別リハビリの時間に担当職員とリハビリメニューを行う利用者の姿はいきいきしています。

- (2) 職員会議で利用者の心地よさや丁寧な支援とは何か話し合いました。皆で意見を出し合うことで方向性について考え、利用者への声かけや接し方についてより気を配るようになりました。

3 実施状況

(1) 実施日課等

	月	火	水	木	金
午前	朝の会 入 浴	朝の会 散歩	朝の会 入 浴	朝の会 散歩	朝の会 入 浴
午後	入 浴 作 業 創作活動 帰りの会	散 歩 個別活動 個別リハ 帰りの会	入 浴 作 業 創作活動 帰りの会	散 歩 個別活動 個別リハ 帰りの会	入 浴 作 業 創作活動 帰りの会
その他	誕生会（随時実施）：昼食希望メニュー 創作活動：季節に合わせた壁面飾り・カレンダー作り等 個別活動：アイロンビーズ・手芸・パズル・塗り絵・ゲーム スヌーズレン等 作業：箱折り・紙袋作り・ミシン・リサイクル スイーツパック詰め・ポチ袋作り等 レクリエーション：カラオケ・ゲーム等 ティータイム・スイーツデリバリー（随時実施） 防災訓練：時間帯不定期（1回／月） 園芸活動：花壇・こもれびファーム 中伊豆リハビリ理学療法士訪問（1回／月） 仲程医師回診（1回／月）				

(2) 行事・活動等

実施月	内容	参加人数
4月	お花見ドライブ	25名
	成人を祝う会	20名
5月	スイーツデリバリー	16名
6月	収穫祭（こもれびファーム：じゃがいも）	22名
	ボウリング大会	23名
7月	七夕会	21名
8月	暑気払い	21名
9月	運動会	22名
10月	写生大会	18名
	ハロウィンパーティー	18名
11月	171伝言ダイヤル訓練	28名
	紅葉ドライブ	23名
	障害者週間準備（バンドエイドキット作成）	26名
12月	障害者週間パネル設置(富戸駅・伊豆高原駅)	
	クリスマス会①12/15	23名
	クリスマス会②12/20	23名
1月	書初め大会	27名
	新年会（昼食デリバリー）	15名
2月	節分(豆まき)	20名
3月	ひなまつり（ティータイム）	17名
	デリバリー	18名
	花見ドライブ	22名
	福祉大会ラッピング作業	

4 利用実績

月	利用者数	利用人数	開所日数	平均利用者数	送迎延べ人数
4月	28	438	21	20.8	800
5月	28	429	22	19.5	777
6月	28	468	22	21.2	854
7月	28	454	21	21.6	739
8月	28	471	23	20.4	641
9月	28	441	22	20.0	776
10月	28	417	21	19.8	761
11月	28	416	22	18.9	755
12月	28	401	20	20.05	727
1月	28	383	20	19.15	659
2月	28	375	20	18.75	664
3月	28	429	23	18.6	773
計	—	5,122	257	20.0	8,926

第2 こもればショートステイ

1 総括

ショートステイ希望の利用者の方には面談を行い、自宅での過ごし方と変わらないよう対応し、ゆったりと穏やかな時間となるように支援しました。ショートステイの利用希望日が他の利用者の希望と重なることがありましたが、日程調整をすることで希望に沿った利用をしていただけました。ショートステイ利用前の利用者の体調確認を行い、居室の消毒や換気、清掃等の対応を強化し安心して利用できるよう努めました。8月のショートステイ

ィ利用は感染症対策のため、家族と相談の上、中止しました。

2 実施状況

(1) 事業内容

ア 利用対象者：短期入所利用決定を受けている障害者

イ 利用定員：短期入所：2名（単独型）

ウ 支援内容

（ア）食事・排泄等の日常生活動作を支援しました。

（イ）家族、関係各機関との連絡・調整、相談受付を行いました。

(2) 効果

ア 家族の予定等で、当日の依頼にも対応しました。

イ 利用に関する相談や面談を行うことで、利用者に関する状況の把握ができました。

3 利用実績

短期入所年間利用者数：118名

第3 こもればショートスティ（日中一時支援）

1 総括

家族の就労や外出等で利用される方が多かったです。家族の急な用事での依頼は、当日の利用希望に沿い対応しました。利用の際は検温や消毒、定期的な換気を実施し、安全に過ごしていただけるよう支援しました。

2 実施状況

(1) 事業内容

ア 利用対象者：伊東市に在住し、日中一時支援利用決定を受けている人

イ 利用定員：安全にお預かりできる範囲内

ウ 利用時間：8：00～17：00まで

時間外の利用については相談に応じ対応しました。

(2) 効果

家族の介護負担軽減や当日の急な用事等に対応することで、家族の大切な時間を作ることができました。

3 利用実績

日中一時支援年間利用者数：88名

第4 相談支援センターいぶき

1 総括

会議や研修でオンラインが活用されるようになった一方で感染症との付き合いも3年目になり、訪問先や関係機関と相談し、基本的な感染対策をした上で対面での話し合い、活動する機会も増えた1年でした。余暇や療育支援の活動も要望に応え、工夫して開催しました。福祉サービスの利用に関しては、感染症流行期に短期入所の受け入れが停止してしまうことを除いて、感染予防による受け入れ制限は少しずつ緩和され、必要なタイミングや見通しをもってサービス利用できるようになり、関係機関と連携して支援しました。

2 重点目標に対する取り組みと成果

利用者やその家族、関係機関からのどの相談に対しても状況確認、利用者やその周囲の方々は何に困っているのか、どうしてほしいのか主訴を明確にしていけるよう丁寧に聞き取り、思いや状況を捉える努力をしました。解決の糸口が見つからず対応に苦慮することもありましたが、多職種、多機関の方に相談、協力していただきながら対応、支援方法を検討し、現状でできることを利用者にわかりやすく説明することで納得して安心した生活を続けていけるよう支援しました。

3 実施状況

(1) 活動内容

熱海市	伊東市
ふれあいコアラ教室 1回/月 市役所サテライト相談 1回/月 個別支援会議(78回)	さくらんぼ教室 1回/月 リトルキッズ 1~2回/月 twinkle 1回/月 市役所サテライト相談(2回/月) 個別支援会議(304回)
その他	
・おにぎりの会 1回/月 ・菜の花会 1回/月 ・くじらの会 1回/月 ・さくらの会不定期 ・伊豆地区就業促進協議会・おおむろ連絡会議 ・地域自立支援協議会（庶務受託・知的障害部会・児童部会・重心部会・就労支援部会・伊東市防災グループ会議・放課後等デイサービス連絡会・発達ワーキンググループ会議・相談支援連絡会・部会長会議） ・圏域自立支援協議会（スーパーバイザー設置事業受託・地域移行部会） ・静岡県在宅重症心身障害児（者）療育支援事業委託	

(2) 相談内容と成果

- ア 感染症に対する考え方や危機感が多様化する中で、会議は感染状況や参加人数、目的や内容から感染防止を考えより適した方法を選択し、訪問は、訪問先の状況や意向に沿った形で行うようにし、継続して相談支援を行いました。
- イ 持病の進行や病状により現状の生活が難しくなった方々が必要なりハビリや生活環境が整った場所での生活を送るため、また、医療的ケアが必要な方の短期入所の希望があり、利用できる事業所を探しました。他事業所や医療機関の方々の援助協力もあり、施設入所や短期入所利用に繋がりました。利用者や家族にとって普段とは違う初めての事業所利用となったケースもありましたが、関係者同士で情報共有、助言し合える日頃からの関係性を活かし、本人や家族の意向や状況をふまえた利用ができました。
- ウ 一人暮らしの方や不安の多い方から生活全般の支援や精神的支えが必要なケースの相談が継続しており、関係機関との連携のもと個別に対応しながら安心した生活に向けて環境を整える支援を行いました。生活全般の支援では継続して利用者の生活スタイルにあわせてサポートをしています。
- エ 利用者やその家族の生活のしにくさや家族の負担が大きい状況には気持ちに寄り添い関係機関と連携しながら相談支援を行いました。相談する機関が少なく、すぐに解決策が見つかるわけではない中で、個別性の高い対応となりその方の特性に合わせた支援をしました。
- オ 放課後等デイサービスと児童発達支援のサービス等利用計画の作成依頼は継続して増えています。放課後等デイサービスの利用希望者は、支援学校から普通級に在籍する児童まで多岐に渡っています。実際に見学に行ってもらうことで各事業所の特徴や雰囲気を感じてもらい意向に沿った利用が叶うよう調整しました。
- カ 当センターでは主に知的障害のある方と児童の計画相談を担当しています。令和4年度作成者数は393件でした。

(3) 課題

- ア 短期入所及び日中一時支援は本人及び家族の状況により需要が多い状況は継続しています。今後もニーズは続いていくと思われますが、現在短期入所を利用している方が家庭復帰を含め移行する場所の目途が立たない状況も変化がありません。地域の方が必要な時に利用できるシステムづくりは地域の課題でもあります。
- イ 医療的ケアや身体障害のある児童が利用できる事業所は限られ、家族

の負担が大きくなっています。家族の負担軽減のためだけでなく早期療育の視点からも他児や適切な支援のある環境で刺激を受ける機会の創出は必要ですが、受け入れには人材確保や環境整備が壁となっています。希望に応えられるような体制づくりを考えていく必要があります。

ウ 放課後等デイサービスは支給対象の判断に柔軟性があり、市の保健師や医療機関、教育機関、保護者間同士の繋がりでその名前が周知され、普通級から特別支援学校に在籍する児童まで幅広く利用しています。そのため、満員の事業所が多く、希望する事業所で希望する日数利用することは難しい状況になっています。児童、家庭が抱える課題はサービス利用だけでよい方向に進むことばかりではありません。教育や障害担当以外の行政との連携が不十分なため、構築が必要となります。

エ 一人暮らしの方の金銭管理や通院支援に関する相談や同行が多くありました。どちらも法定サービスや制度上では補えない部分があるため、今後に対応せざるを得ない事態が出てくる予想があります。1事業所としてどこまで支援していくかケースに応じた対応を行政や関係機関と協議しながら進めています。

オ 強度行動障害の方への課題も継続しています。支援の難しい行動や表れに家族は疲弊していますが、圏域内でも新規で受け入れられる事業所はなく、家族と現在対応している事業所に頼らざるを得ない状況にあります。今後、家庭で支援していくことが難しくなる方も出てくると予想される中、まずはこのような方々の受け皿となる既存の施設における職員のスキルアップが必要となります。

カ 令和3年度から県の療育事業の対象が重症心身障害児者のみとなり、これまで療育事業の中で対応していた方々の多くが対象外となっています。支援を継続していますが、安定した支援体制づくりを市と話し合いながら考えていく必要があります。

4 利用実績

(1) 登録者数 (2023 年 3 月現在)

登録者数 602 名	新規登録者 47 名
------------	------------

(2) 利用状況

区分	3 年度		4 年度	
	相談員	療育	相談員	療育
訪問	350	14	317	21
外来	123	－	87	－
同行	72	－	78	－
電話相談	1, 141	－	1, 337	－
電子メール	222	－	451	－
個別支援会議	382	－	299	－
関係機関	1, 660		1, 576	－
その他	23	－	3	－
合計	3, 973	14	4, 148	21

※幅広く対象とされていた療育の対象者が重症心身障害児（者）に限られたため利用実績が減っています。

第5 こもればいホームヘルプ

1 総括

感染症の影響により重度の障害のある方の対応は思うようにいきませんでした。職員の人材確保が難しくサービス提供がとても困難な年度でした。サービス提供時は感染対策を施し利用者の毎日の生活が困る事のないよう柔軟に対応しました。移動支援は屋外での散歩や運動の外出計画、短時間での散歩外出の回数を増やし余暇活動の支援を工夫しました。

2 重点目標に対する取り組みと成果

利用者及び、家族の立場に寄り添い、充実した生活を送れるよう柔軟に対

応したサービスの提供を目指すよう務めました。利用者の体調不良時や緊急時の利用希望にもできる限り柔軟に対応しました。移動支援は外食希望が多くありましたが、感染対策の観点から希望に添った支援ができませんでした。市内の感染状況を確認しながら屋外散策の計画や短時間での散歩などで外出の機会を増やし余暇活動の支援に努めました。

3 実施状況

(1) 居宅介護

ア 活動内容

在宅の障害児（者）が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、入浴、排泄、及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言その他の生活全般にわたる援助を適切かつ効果的に行いました。

(2) 移動支援

ア 活動内容

一人で外出することが困難な方や複数での外出の機会を増やしたい方に対して、目的地へ安心して安全に出かけられるような介助、付添いを行いました。

(3) 福祉有償運送

ア 活動内容

一人で公共交通機関を利用することが困難な方に、移動をスムーズに進めるためのサービスとして始められ、通院介助や移動支援の利用時に支援を行いました。

4 利用実績

(1) 居宅介護

利用者数成人 26 名 児童 1 名

	令和 3 年度			令和 4 年度		
	身体介護	家事援助	通院介護	身体介護	家事援助	通院介護
4 月	67.5	48.0	10.0	68.5	61.25	13.0
5 月	67.0	48.5	10.0	59.0	60.50	11.5
6 月	71.5	48.5	9.5	69.0	57.00	9.5
7 月	60.0	42.0	16.5	58.0	55.50	14.0
8 月	53.5	32.0	7.0	60.5	59.50	6.5
9 月	66.0	41.0	10.5	64.5	49.50	14.5
10 月	67.5	43.0	16.0	59.0	39.25	7.0
11 月	70.5	43.5	11.0	53.5	39.50	3.0
12 月	62.5	47.5	21.0	47.0	37.75	8.5
1 月	52.0	59.0	11.0	51.5	42.50	7.5
2 月	63.5	51.0	9.0	43.5	34.25	5.5
3 月	81.0	56.5	14.5	42.0	51.25	11.0
小計	782.5	560.5	146.0	676.0	587.75	111.5
合計	1,489 時間			1375.25 時間		

(2) 移動支援 利用者数 伊東市成人 18 名 児童 2 名 熱海市成人 4 名 児童 0 名

	令和 3 年度		令和 4 年度	
	伊東市	熱海市	伊東市	熱海市
4 月	31.5	7.0	46.5	8.5
5 月	39.0	15.0	44.5	9.0
6 月	26.0	10.0	41.0	8.0
7 月	36.0	7.0	37.0	5.5
8 月	19.0	3.5	15.0	1.0
9 月	15.5	1.5	23.5	3.5
10 月	37.5	10.5	27.5	7.5
11 月	40.5	9.0	17.5	1.0
12 月	41.0	14.0	20.0	4.0
1 月	30.5	8.0	16.0	4.0
2 月	30.5	8.5	17.0	4.0
3 月	32.5	8.5	27.0	10.0
小計	379.5	102.5	332.5	66.0
合計	482 時間		398.5 時間	

(3) 福祉有償運送

運行回数

	令和 3 年度		令和 4 年度	
	伊東市	熱海市	伊東市	熱海市
4 月	27	0	30	0
5 月	28	0	26	0
6 月	24	0	26	0
7 月	28	0	24	0
8 月	12	0	12	0
9 月	12	0	24	0
10 月	33	0	26	0
11 月	26	0	10	0
12 月	35	0	20	0
1 月	18	0	18	0
2 月	25	0	19	0
3 月	27	0	24	0
小計	295	0	259	0
合計	295 件		259 件	

令和 4 年度

奨学金拠点区分

事業報告書

1 総括

地域福祉の向上に資する人材の育成及び確保を目的として、人材確保が困難な看護師について、社会福祉法人城ヶ崎いこいの里奨学金貸与規則に基づき、奨学生を募集しました。

2 実施状況

(1) 奨学生の募集

法人ホームページに募集要項を掲載し、募集内容や奨学金貸与事業の制度を広く周知することで奨学生の募集に努めましたが、令和4年度に新たに奨学金を貸与した者はありませんでした。

(2) 寄附金の収受

奨学金貸与を目的とした寄附として、10万9,542円を収受しております。将来の奨学金貸与に備え、奨学金拠点区分の会計処理として、奨学金貸付金の原資として積立てを行いました。

令和4年度

城ヶ崎デイサービスセンター拠点区分

事業報告書

第1 城ヶ崎デイサービスセンター

1 総括

令和4年度は、開所日数242日、登録人数85名（男性11名、女性74名）年間総利用者数は3,381名です。新型コロナウイルス感染対策に伴い営業時間を14時までに短縮して事業を実施していましたが、令和4年3月13日より通常時間の15時までに戻すことができたため、午後の活動プログラムも充実することができ、介護予防や気持ちのリフレッシュ等を楽しく安全に考慮し実施しました。

新型コロナウイルス感染症対策として、食堂テーブルに仕切り板を設置し換気や消毒を徹底したことにより、新型コロナ感染症による休所日は1日のみで利用者数も前年に比べ総利用者数36名、登録者数で6名の増となっております。活動についても、一人暮らしや閉じこもりがちな高齢者を送迎し外出の機会を提供し、また、連絡ノートを活用し健康状態のチェックや面談により心身の状態や要望の把握に努めました。その季節にあった外出や物作り、レクリエーションによって利用者に喜ばれました。

2 実施状況

(1) 事業内容

ア 生きがい対応型デイサービスセンターとして、伊東市より委託を受けている施設です。介護保険に該当しない高齢者の日常生活に必要な動作・体力維持・健康増進の介護予防を推進し、様々な趣味、レクリエーション活動を通じ自立した生きがいのもてる生活を送れるように支援し、閉じこもりがちな高齢者や一人暮らしの高齢者に社会参加の機会を提供しました。

イ 健康増進のための事業

(ア) 温泉入浴によるリラックス作用の促進、清潔保持に努めるとともに身体の変化を確認しました。

(イ) 健康をチェックしバイタル測定による体調管理を行いました。

(ウ) 健康機器を利用しその方に適した体力や機能維持訓練を行いました。

(エ) 様々なプログラムに参加することで知識の向上。また、困りごとなどの各種相談に対応しました。

(オ) 栄養計算された美味しい食事を提供しました。

(2) 生きがい対策のための事業

ア 各種プログラム

(ア) 創作活動、頭の体操、各種レクリエーション活動、介護予防体操

(イ) 散歩、買い物、外出活動

イ 年間行事

(ア) 季節に応じた行事のプログラムの提供

(イ) 梅雨明け予想、七夕会、ハロウィーン祭、クリスマス会、節分祭

(3) その他

送迎 マイクロバスと公用車を使用し、利用毎に消毒を行いました。

(4) 年間事業報告

月	事業報告	備考
4月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・塗り絵・頭の体操プリント・散歩・買い物・シュートゲーム・輪投げ・カレンダー作成	汚泥汲み取り 東海プラント
5月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・塗り絵・頭の体操プリント・藤の短冊作り・買い物・カレンダー作成・飛行機作り・梅雨明け予想	
6月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・塗り絵・頭の体操プリント・紫陽花作り・やまももパン販売・ボールスライダー・カレンダー作成・都道府県ビンゴ・買い物・風鈴作り	館内消毒 ダスキン
7月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練・塗り絵・頭の体操プリント・風鈴作り・カレンダー作成・伝言ゲーム・七夕短冊作り・七夕祭・買い物・キックカーリング	消防設備点検 伊東防災 外壁修繕
8月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・塗り絵・たこ焼きゲーム・頭の体操プリント・こもれびゼリー販売・カレンダー作成・盆踊り・オリンピックゲーム・的当てゲーム・たもシュート	消防設備点検 伊東防災
9月	テレビ体操・口腔体操・敬老会・防災訓練・体重測定・頭の体操プリント・やまももパン販売・カレンダー作成・塗り絵・ボッチャ・コグニサイズ・散歩・ペットボトルボーリング	浄化槽清掃 吉田衛生社 エアコン点検
10月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・散歩・やまももパン販売・防災訓練・頭の体操プリント・カレンダー作成・塗り絵・ハロウィーン工作・玉入れ・ハロウィーン仮装大会・パターゴルフ・都道府県ビンゴ	
11月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練・買い物・頭の体操プリント・カレンダー作成・塗り絵・散歩・誕生会余興練習・ペットボトルボーリング・的当てゲーム	エアコン取付
12月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練・買い物・頭の体操プリント・カレンダー作成・塗り絵・正月用工作・102歳を祝う会・散歩・クリスマス会	館内消毒 ダスキン
1月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練・初詣・頭の体操プリント・カレンダー作成・塗り絵・書初め大会・福笑いゲーム	
2月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練・頭の体操プリント・カレンダー作成・塗り絵・節分祭・奥野ダム梅見学・散歩・キックカーリング。射撃ゲーム	
3月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・頭の体操プリント・カレンダー作成・塗り絵・雛あられすくいゲーム・散歩・たもシュート・ドライブ桜	エアコン点検 祢次金冷設

3 利用実績

(1) 運営事業実施状況

ア 月別年間一覧表

実施 月別	開所 日数	登録人員		利用人数		合計	体験	総合計	一日 平均	送迎	入浴	給食
		男性	女性	男性	女性							
4	20	81		38	236	274	5	279	14	277	91	279
		12	69									
5	19	81		35	230	265	2	267	14	262	88	267
		12	69									
6	22	80		45	258	303	2	305	14	301	107	305
		12	68									
7	20	80		35	225	260	5	265	13	265	79	265
		13	67									
8	22	81		46	207	253	5	258	12	256	79	155
		13	68									
9	20	81		38	225	263	8	271	14	271	86	129
		12	69									
10	20	82		36	242	278	4	282	14	282	91	282
		12	70									
11	19	84		38	228	266	6	272	14	272	91	272
		12	72									
12	20	84		36	250	286	3	289	14	289	50	289
		12	72									
1	19	83		35	225	260	6	266	14	266	71	224
		11	72									
2	19	85		38	236	274	11	285	15	285	74	285
		12	73									
3	22	85		35	304	339	3	342	16	342	86	342
		11	74									
計	242	987		455	2,866	3,321	60	3,381	14	3,368	993	3,094
		144	843									

イ 新規利用登録・利用解除状況

	男性	女性	合計	備考
新規利用登録者	3	12	15	
利用解除者	2	7	9	介護保険申請のため

第2 伊東市老人憩の家城ヶ崎荘

1 総括

年間開所日295日、総利用者数は、14,811名、1日平均利用者数は50名と前年と比べ、新型コロナウイルス感染症も少し落ち着いたこともあり開館日数も39日多く、利用者も2,629名の増加となっております。開所中の感染症対策として、マスク着用と黙浴を依頼し、入館時の手指のアルコール消毒の徹底と体温測定をお願いし、37.5度以上ある時は、入館をお断りし、浴室や広間については、人数を制限しながらの利用とさせていただき、館内に感染症が持ち込まれないように、換気をこまめに行い安心して利用できるように努めました。館内では利用者同士のトラブルが起きないように配慮し、施設の老朽化による不備で迷惑をかけないようにメンテナンスにも注意し対応いたしました。

防災対策として、毎月1回、デイサービスと合同で防災訓練を実施し非常通報、避難誘導、防災器具の操作が迅速に行えるように訓練を行いました。

温泉の効能は、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、関節のこわばり、冷え性、疲労回復などの効果があり利用者には大変好評をいただきました。

2 利用実績

会館日数		295日		
総利用者数		11,510組		
		14,811名（1日平均50名）		
男性		5,888名		
女性		8,923名		
入浴利用		10,756名		
ヘルストロン利用		795名		
区 分		集会場	休憩室	合 計
老 人	レクリエーション	200件 2,341名	181件 649名	381件 2,990名
	研 修	0件 0名	0件 0名	0件 0名
身体障害児・者	レクリエーション 研 修	0件 0名	0件 0名	0件 0名
その他	レクリエーション 研 修	0件 0名	0件 0名	0件 0名
合 計		200件 2,341名	181件 649名	381件 2,990名

令和4年度

おおむろ拠点区分

事業報告書

第1 障害者就業・生活支援センターおおむろ

1 総括

コロナ禍でありましたが見学や実習、職場訪問を断られるケースは少なくなりました。登録者との面談をリモートでも行い状況に合わせて相談できる体制にしました。相談件数は前年度と同様でしたが電話やメールによる相談が減少し職場訪問の件数が増加しております。登録者及び企業ともに直接顔を合わせることで信頼関係の構築に努めました。

2 実施状況

(1) 活動内容

- ア 企業への支援 (84事業所、592件)
- イ 職場定着促進のための在職者交流活動の実施
(4回のうち2回は個別面談会にて開催し1回は不開催)
- ウ ピアサポート活動
- エ 中小企業における障害者支援担当者に対する支援 (2回開催)
- オ おおむろ連絡会議の主催 (リモート開催) (2回開催)
- カ 熱海・伊東地区地域自立支援協議会就労支援部会の開催
(第6回は書面開催)
- キ 熱海・伊東地区地域自立支援協議会運営会議、定例会への参加、
- ク 伊豆地区就業促進協議会への参加 (2回参加)
- ケ 伊東市障害者雇用推進会議への参加 (6回参加)
- コ 他の就業・生活支援センター連絡会議への参加 (リモート会議2回)
- サ 余暇支援 スマイル会 (6回開催、4月は書面開催、7月は中止)

(2) 相談内容と傾向

内容

- ア 登録者及びその家族、支援機関からの求職に関する相談
- イ 企業及び登録者からの就労の継続に関する相談
- ウ 生活に関する相談
- エ 関係機関との連絡調整

傾向

- ア ハローワーク等の関係機関から、就職を希望する方を紹介していた
だく件数が多くありました。
- イ 職場での人間関係が原因でトラブルになった相談が多くありました。

職場訪問を行い登録者や担当者と話し合い解決に努めました。

- ウ コロナ禍で外出や買い物等の機会減少により、ストレスを溜める方がおられました。余暇支援であるスマイル会で外出する機会を設けストレスの発散を行いました。
- エ 関係機関との連携を密にし、登録者の新規就労支援、就労定着支援、福祉就労への支援を行いました。

(3) 課題

- ア 就業面と生活面での悩みについて登録者が相談しやすい環境を整え、安心して働けるように支援する必要があります。
- イ 自主性を高めるため、また余暇獲得の場としてスマイル会を活用し、登録者に計画から参加していただくように強化いたします。
- ウ 企業へ障害者雇用の制度や有用性について説明を行い、ジョブコーチ支援等の制度についても広く周知していきます。

3 利用実績

(1) 登録状況

	身体		知的		精神		その他		合計		前年度比
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	
在職中	18	24	111	114	27	34	8	1	164	173	105%
求職中	4	6	7	7	3	6	2	1	16	20	125%
その他	23	24	50	58	54	60	6	2	133	144	108%
合計	45	45	168	179	84	100	16	4	313	337	107%

(2) 支援実績

	相談・支援（うち職場訪問）		職場実習件数		就職件数	
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度
4月	112（7）	128（28）	1	0	7	3
5月	124（8）	101（31）	2	4	0	0
6月	131（6）	102（31）	0	0	1	1
7月	114（1）	107（43）	3	2	1	2
8月	122（1）	175（15）	1	1	0	2
9月	115（9）	128（38）	1	1	0	0
10月	119（5）	125（24）	2	0	1	3
11月	97（6）	112（17）	2	1	0	0
12月	115（5）	93（19）	3	1	2	1
1月	111（2）	111（18）	3	1	1	2
2月	109（2）	107（33）	1	2	0	0
3月	132（1）	132（21）	0	3	1	0
合計	1,401（53）	1,421（318）	19	16	14	14
対前年度比		101%（600%）	118%	84%	175%	100%

事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項に該当する事項はありません。

社会福祉法人城ヶ崎いこいの里